

# Ⅱ 北海道博物館の活動

## 1 調査研究

当館では、日本列島の北辺にあって、北東アジアとの係わりが深い北海道の自然・歴史・文化の地域性や歴史的特徴を明らかにするため、専門研究の推進及び諸分野との共同研究を図りながら、5つの研究プロジェクトを行っています。その成果は館の各種刊行物、展示、教育普及などの諸活動に生かされ、館活動の基礎となっています。

### 道費による研究プロジェクト(海外交流を含む)

#### (1) 道民・地域との協働・連携による地域情報集積プロジェクト

道民と協働・連携し、北海道の自然・歴史・文化に関わる基礎的な調査研究を行うプロジェクトです(平成30年4月現在、5課題)。

研究課題	期間	研究グループ	
野幌森林公園の生物インベントリー調査	27~30年度(4年間)	自然研究グループ 博物館研究グループ	◎水島未記、表渕太 堀繁久
北海道における漂着生物についての基礎的情報の集積と博物館での活用	30~34年度(5年間)	自然研究グループ 博物館研究グループ	◎水島未記、表渕太、圓谷昂史 堀繁久
地域に埋もれている古文書・写真・映像記録の掘り起こしと活用	27~30年度(4年間)	歴史研究グループ	◎三浦泰之、山田伸一、東俊佑
戦前・戦中・戦後における道民生活の変遷に関する聞き書き調査	27~31年度(5年間)	学芸部長 生活文化研究グループ	舟山直治 池田貴夫、山際秀紀、◎会田理人、青柳かつら 尾曲香織
モノ、コト、ヒトとをつなぐ博物館資料の活用と公開に関する調査研究	30~34年度(5年間)	博物館研究グループ	◎堀繁久、杉山智昭、櫻井万里子、栗原憲一 村上孝一

※「◎」は代表者

#### (2) 北海道の自然・歴史・文化総合研究プロジェクト

道内の地域博物館等と連携し、北海道の自然・歴史・文化に関して、特定の事項を明らかにしたり、未解決の学問的課題を明らかにするなど、より深く探求するための総合的な調査研究を行うプロジェクトです(平成30年4月現在、3課題)。

研究課題	期間	研究グループ	
石狩低地帯北部地域を中心とした新生代の古環境復元	27~31年度(5年間)	自然研究グループ 博物館研究グループ	添田雄二、◎圓谷昂史 栗原憲一
北方四島の考古学的研究	27~30年度(4年間)	歴史研究グループ	◎右代啓視、鈴木琢也
北海道におけるツルの自然史と文化史	27~30年度(4年間)	自然研究グループ 歴史研究グループ	水島未記、表渕太 ◎山田伸一

※「◎」は代表者

### (3) 北東アジアのなかの北海道研究プロジェクト

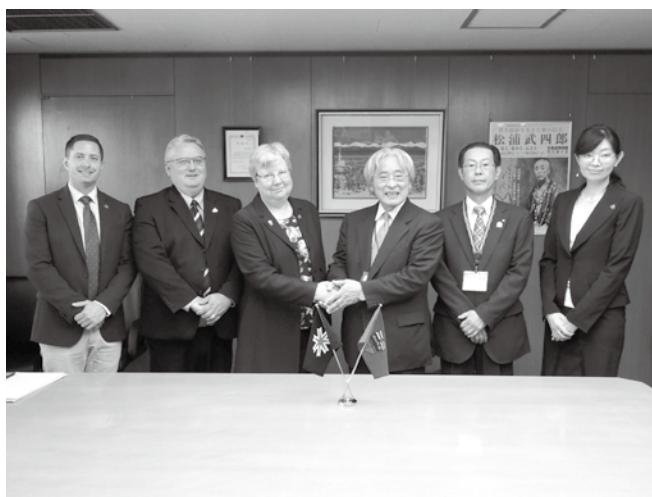
「北東アジアのなかの北海道」という視野で、道との友好協定地域との研究交流事業を含んだ国際共同研究を、研究グループを横断して総合的に行うプロジェクトです。(平成30年4月現在、2課題)。

研究課題	提携先	期間	研究グループ
北海道とサハリン 共通性と特性	ロシア・サハリン州 サハリン州郷土博物館	27~31年度(5年間)	自然研究グループ 歴史研究グループ 生活文化研究グループ 博物館研究グループ アイヌ民族文化研究センター
寒冷地の自然と適応	カナダ・アルバータ州 ロイアル・アルバータ博物館	30~34年度(5年間)	自然研究グループ 生活文化研究グループ 博物館研究グループ アイヌ文化研究グループ
			表渕太、圓谷昂史 山田伸一、三浦泰之、東俊佑 山際秀紀、会田理人、尾曲香織、舟山直治 堀繁久、栗原憲一、鈴木あすみ、鈴木明世 ◎小川正人、大谷洋一、遠藤志保、大坂拓 ◎表渕太、圓谷昂史 池田貴夫、青柳かづら、尾曲香織 栗原憲一、鈴木明世 甲地利恵、田村雅史、亀丸由紀子

※「◎」は代表者

### 平成30年度の海外博物館との共同研究調査

招聘・派遣者	期間	主な調査内容と調査地
ゲンナジー・マチュシコフ(サハリン州郷土博物館) ヴィクトリア・ドゥビニーナ(サハリン州郷土博物館)	7月26日~8月9日 (15日間)	ナキウサギ観察(糠平)、シマフクロウ観察(根室)、昆虫標本調査(遠軽町)、研究交流会(北海道博物館)



ロイアル・アルバータ博物館との共同研究に関する覚書の調印(8月2日)

### (4) アイヌ文化に関する資料・情報の集積プロジェクト

アイヌ文化に関する基礎的・総合的な調査研究を行うプロジェクトです(平成30年4月現在、4課題)。

研究課題	期間	研究グループ
アイヌの歌謡の旋律構造と歌唱形式に関する調査研究	29~34年度(6年間)	アイヌ民族文化研究センター
アイヌ口承文芸「和人の散文説話」資料に関する調査研究	24~31年度(8年間)	アイヌ民族文化研究センター
北海道東部地域のアイヌ語資料に関する基礎的調査	26~30年度(4年間)	アイヌ民族文化研究センター
道内アイヌ民具の所在情報の調査と集積 1 北海道南部	28~31年度(4年間)	アイヌ民族文化研究センター

### (5) アイヌ文化に関する総合的・学際的研究プロジェクト

アイヌ文化に関する専門的・総合的な調査研究を行うプロジェクトです(平成30年4月現在、4課題)。

研究課題	期間	研究グループ
近現代におけるアイヌ民族による伝統文化の紹介・展示の歴史に関する調査研究	28~31年度(4年間)	アイヌ民族文化研究センター
教育と産業への取り組みを通してみるアイヌの近代	28~31年度(4年間)	アイヌ民族文化研究センター
アイヌ口承文芸における世界観に関する調査研究	28~31年度(4年間)	アイヌ民族文化研究センター
アイヌ文化資料の内容分析(寄贈資料等)	26~31年度(6年間)	アイヌ民族文化研究センター

一全員

## 公開研究会

当館の研究プロジェクトにかかる成果報告や共同調査などの場として、さまざまな形で公開研究会を開催しています。

## 科研費ほか外部資金

### 1. 平成 30 年度の科学研究費補助金による調査研究(当館職員が研究代表者になっている課題) (12 課題)

#### 自然研究グループ

継続 基盤研究(B)一般	平成 27~30 年度	小氷期最寒冷期と巨大噴火・津波がアイヌ民族へ与えた影響	添田雄二
--------------	-------------	-----------------------------	------

#### 歴史研究グループ

新規 基盤研究(B)一般	平成 30~34 年度	北方四島と千島列島における人類活動史の考古学的研究	右代啓視
継続 基盤研究(C)一般	平成 28~31 年度	近代の北海道と周辺地域における生物の人為的移入に関する研究	山田伸一
継続 基盤研究(C)一般	平成 28~32 年度	蝦夷地のアイヌ有力者が入手した外来交易品と勘定システムの成立に関する研究	東俊佑

#### 生活文化研究グループ

継続 基盤研究(C)一般	平成 28~32 年度	北海道における海女出稼ぎ漁と磯まわり漁業の関係史研究	会田理人
継続 基盤研究(C)一般	平成 29~33 年度	北海道地方で特徴的かつ広域的に拡がった季節行事の生成と波及に関する研究	池田貴夫
新規 基盤研究(C)一般	平成 30~34 年度	少子高齢社会のウェルビーイング創成型地域学習コンテンツの開発	青柳かつら

#### 博物館研究グループ

継続 基盤研究(C)一般	平成 29~31 年度	X 線 CT を核としたアイヌ民族資料の保存修復に関する研究	杉山智昭
新規 基盤研究(C)一般	平成 30~33 年度	博物館資料の収集と利活用を促進させるサイクルの構築: 北海道産アンモナイトを事例に	栗原憲一

#### アイヌ民族文化研究センター・アイヌ文化研究グループ

継続 基盤研究(C)一般	平成 28~30 年度	近代北海道・樺太におけるアイヌ民族による学校設置: その歴史的意味に関する基礎研究	小川正人
新規 基盤研究(C)一般	平成 30~34 年度	アイヌ音楽の旋律分析研究、及び北方諸民族の音楽との比較研究に向けた基礎的調査	甲地利恵
新規 若手研究	平成 30~34 年度	考古学的分析手法を導入した博物館収蔵アイヌ民具資料の基礎的研究	大坂拓

### 2. 平成 30 年度の科学研究費補助金による研究課題への研究分担者としての参加 (2 課題)

#### 歴史研究グループ

継続 基盤研究(B)	平成 29~32 年度	好古家ネットワークの形成と近代博物館創設に関する学際的研究(研究代表者: 國學院大學 内川隆志)	三浦泰之
------------	-------------	--	------

#### 博物館研究グループ

継続 基盤研究(B)	平成 28~31 年度	寒冷地域における遺跡や石造文化財の保存・修復に関する研究 (研究代表者: 東北芸術工科大学 石崎武志)	杉山智昭
------------	-------------	--	------

### 3. 平成 30 年度の科学研究費補助金以外の共同研究への参加 (2 課題)

#### 生活文化研究グループ

日本学術振興会「課題設定による先導的 継続 人文学・社会科学研究推進事業」実社会 対応プログラム(公募型研究テーマ)	平成 27~30 年度	日本の昆布文化と道内生産地の経済社会の相互連関に関する 研究(研究代表者: 星城大学リハビリテーション学部 齋藤貴之)	会田理人
--	-------------	--	------

#### アイヌ民族文化研究センター・アイヌ文化研究グループ

2017 年度人文科学、社会科学に関する 継続 る学際的グループ研究助成(公益財團 法人サントリー文化財団助成金)	平成 29~30 年度	北海道日本海岸沿岸のアイヌ民族が経験した 19 世紀 (研究代表者: 小川正人)	小川正人 遠藤志保 大坂拓
---	-------------	---	---------------------

## 研究成果の発信と公開

学芸・研究職員の個別研究課題、分野別研究、科学研究費補助金などによる調査研究の成果を広く社会に公開するため、当館では研究紀要や報告書を作成し、北海道の自然・歴史・文化および博物館学に関する論文、研究ノート、資料紹介を掲載することで、研究成果の発信と公開に努めています。また、専門書や学術雑誌への論文等の寄稿や、他機関主催の講座・講演会などへの職員の講師派遣、研究会や学会での発表も行っています。

### (1) 館出版物への執筆

#### 平成 30 年度の館出版物への執筆(18 件)(当館職員は下線)

『北海道博物館研究紀要』第 4 号

種 別 著 者 名	タ イ ル	ページ
研究ノート 東 俊佑	「土人給料勘定」のしきみ(II) – 北蝦夷地ウショロ場所經營帳簿「北蝦夷地用」 の分析 –	1~10
研究ノート 山際秀紀	北海道における亜麻生産とバイオリン播種器 – 現存する資料の構造分析を 中心に –	11~20
研究ノート 杉山智昭・赤田昌倫・島越俊行ほか	X 線 CT によるアイヌ民族資料「シントコ(行器)」の製作技法および劣化現況に 関する調査	21~28
研究ノート 杉山智昭・山崎正彦	新規導入展示ケースにおけるアルデヒド類の放散について	29~36
調査報告 右代啓視・鈴木琢也・高橋勇人ほか	千島列島における人類活動史の考古学的総合研究(IV) –特に北方四島の 先史文化研究を中心に –	37~56
調査報告 添田雄二・青野友哉・富塚龍ほか	小氷期最寒冷期と巨大噴火・津波がアイヌ民族に与えた影響IV	57~72
調査報告 青柳かづら	少子高齢社会のウェルビーイング創成型地域学習コンテンツの開発 – 東旭川における高齢者参画型地域資源マップの効果と課題 –	73~86
博物館活動報告 杉山智昭	平成 30 年度 北海道博物館資料保存修復報告	87~102
博物館活動報告 田村雅史	アイヌ語ブロックのその後 – 普及行事での活用 –	103~128
調査報告 舟山直治・尾曲香織・池田貴夫	端布からみた後藤家の衣服のあゆみ	129~172 (27)~(70)
調査報告 山田伸一	一八九〇~一九三〇年代の北海道におけるツルと人	173~180 (19)~(26)
研究ノート 山田伸一	一八八二年四月、襟裳岬近くで座礁した英國船	181~198 (1)~(18)

(※ ( )内の数字は縦書きページのページ数)

『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第 4 号

種 別 著 者 名	タ イ ル	ページ
論 文 大坂 拓	浜益地域のアイヌ民具資料に関する基礎的検討	1~24
論 文 大坂 拓	アイヌ民族の編袋 – 地域差と年代差、及び「土産物」・「伝統工芸品」としての 継承 –	25~60
論 文 奥田統己	“地鎮祭”的アイヌ語 – 呼称および祈詞の事例について –	61~72
論 文 奥田統己	千歳地方の神謡の韻律的指向性	73~78
調査報告 大谷洋一	アイヌ口承文芸「散文説話」 – タンネサラの男 –	79~92
資料紹介 大坂 拓	アイヌ民具の漁具・木盆 – 2018(平成 30)年度新収蔵資料の紹介1 –	93~96
資料紹介 小川正人	雑誌『ウタリ乃光り』及びチン青年団團則 – 2018(平成 30)年度新収蔵資料の 紹介2 –	97~108
博物館活動 佐々木利和・五十嵐聰美・浅野敏昭・三 一【公開研究報告会】余市のアイヌ文化を考える		109~144
報 告 浦泰之・大坂 拓・田島佳也・小川正人		

## 特別展図録、企画テーマ展パンフレットの発行

図録	幕末維新を生きた旅の巨人 松浦武四郎 一見る、集める、伝える—
企画テーマ展	第 11 回企画テーマ展 野幌森林公園いきもの図鑑
パンフレット	第 12 回企画テーマ展 りんご農家の道具
	第 13 回企画テーマ展 アイヌ民族の文化財を未来へつなぐ —博物館のはたす役割—

## (2) 学会誌等、館出版物以外の出版物への執筆

### 平成 30 年度の学会誌等、館外出版物への執筆(34 件)

#### 【学芸部長(3 件)】

執筆者	タイトル	出典	出版社・発行者	ページ
舟山直治	年中行事具	北海道民具事典 I	北海道新聞社	287~293
舟山直治	信仰用具	北海道民具事典 I	北海道新聞社	333~339
舟山直治	郷土芸能用具	北海道民具事典 I	北海道新聞社	340~345

#### 【自然研究グループ(8 件)】

執筆者	タイトル	出典	出版社・発行者	ページ
添田雄二・青野友哉	17 世紀の自然災害とアイヌ社会—伊達市の調査 事例から—	季刊考古学 146 号	雄山閣	87~88
添田雄二他(編)	伊達市カムイタコブフ下遺跡発掘調査報告書 近 世アイヌ文化期の集落		北海道博物館	
表渕太	河川環境とシマクロウ	ビオストーリー 30 号	生き物文化誌学会	60~63
鈴木明彦・圓谷昂史	奄美大島の打ち上げ貝類	漂着物学会誌 16 卷	漂着物学会	9~16
SUZUKI, Akihiko, ENYA, Takafumi	Clavate Gastrochaenolites produced by the rock-boring clam Penitella kamakurensis from Aonae Beach on Okushiri Island, Hokkaido	漂着物学会誌 16 卷	漂着物学会	27~29
鈴木明彦・圓谷昂史	北海道奥尻島球浦海岸へ打ち上げられた珪化木	漂着物学会誌 16 卷	漂着物学会	30
圓谷昂史・鈴木明彦	サハリン島南部地域における海岸漂着物の特徴	漂着物学会誌 16 卷	漂着物学会	31~35
ENYA, Takafumi, SUZUKI, Akihiko	Paleobiogeographic significance of the Janthinid snails on the Japanese Islands based on fossil and modern records	Abstract Volume of 5th INQUA2019 International Palaeontological Congress 5	INQUA2019	100~101

#### 【歴史研究グループ(11 件)】

執筆者	タイトル	出典	出版社・発行者	ページ
USHIRO, Hiroshi, SUZUKI, Takuya	Remains of Kunashiri Island—from Research on the Materials Collected in the Yuzhno-Kurilskij Regional Museum—	Research Association of Culture in Northern Lslands.No.13.	Research Association of Culture in Northern Lslands	39~56
三浦泰之	第 19 講 松浦武四郎—時代を見つめ、集めて、 伝えた、希代の旅人	筒井清忠編 明治史講 義【人物篇】(ちくま新書)	筑摩書房	317~334
三浦泰之	松浦武四郎研究の現状と課題—新たなる武四郎 像の構築に向けて—(北海学園大学人文学会第 5 回大会シンポジウム記録)	北海学園大学人文論集 第 65 号	北海学園大学人文学部	8~31
三浦泰之	松浦武四郎記念館所蔵「蝦夷屏風」に貼り交ぜの 領収証類について(6)—安政 5 年(1858)分(2)—	松浦武四郎研究会会誌 第 75 号	松浦武四郎研究会	9~20
三浦泰之	「北海道」の命名と「北海道国郡図」の出版(特集 「松浦武四郎の視点と北海道」)	地図中心 2018 年 9 月 通巻 552 号	日本地図センター	8~9
三浦泰之	巡回展「幕末維新を生きた旅の巨人 松浦武四郎 —見る、集める、伝える—」に寄せて	労働文化 No.273	北海道労働文化協会	33~37

三浦泰之	【講演録】北海道開拓と士族移住	岩出山伊達家の北海道開拓移住—「吾妻家文書」を読む—(東北アジア研究センター叢書 第 64号)	東北大学東北アジア研 究センター	19~38
三浦泰之	古文書の魅力 一学芸員としてのこれまでの経験からー	文化情報 Vol.372	北海道文化財保護協会	6
山田伸一	札幌県(1882~1886年)におけるアイヌ民族の饑餓	新しい歴史学のために	京都民科歴史部会	41~53
鈴木琢也	〔書評と紹介〕小口雅史編『古代国家と北方世界』	弘前大学國史研究 第 145 号	弘前大学國史研究会	32~35
東俊佑	北蝦夷地ウショロ場所における漆器の流入とアイヌの給料勘定	浅倉有子編『アイヌの漆器に関する学際的研究』	北海道出版企画センター	33~55

#### 【生活文化研究グループ(3件)】

執筆者	タイトル	出典	出版社・発行者	ページ
池田貴夫	北海道のクマ信仰・クマ儀礼	BIOSTORY vol. 30	生き物文化誌学会(編)、誠文堂新光社(発行)	28~35
池田貴夫	北海道 150 年—急速に姿を変えた北の大地—	土木学会誌 Vol.103 No.8	土木学会	30~31
尾曲香織	北海道陸別町における結婚披露と会費制祝賀会—昭和 46 年から 55 年の事例をもとに—	女性と経験 43 号	女性民俗学研究会	22~32

#### 【博物館研究グループ(7件)】

執筆者	タイトル	出典	出版社・発行者	ページ
堀繁久	日高の浦河町でハスオビヒゲナガカミキリを確認	jezoensis44 号	北海道昆虫同好会	21
堀繁久・名越和夫	北海道の <i>Odacantha</i> (クビナガコムシ) 属	jezoensis44 号	北海道昆虫同好会	30~31
横山透・堀繁久	野幌森林公園の稀少なトンボ 6 種の記録	jezoensis44 号	北海道昆虫同好会	60~61
堀繁久・名越和夫	ミズギワアトキリゴミムシヒメズギワアトキリゴミムシ	道南虫の会会報	道南虫の会	29~30
堀繁久	北海道から確認されたアカギカムシ	月刊むし	むし社	3~4
大谷茂之・栗原憲一	北海道博物館協会学芸職員部会によるスキルアップ プログラム	『博物館研究』第 53 卷 10 号	公益財団法人日本博物館協会	10~13
Tanaka, H., Kobayashi, Y., Kurihara, K., Fiorillo, A. R. and Kano, M.	The oldest Asian hesperornithiform from the Upper Cretaceous of Japan, and the phylogenetic reassessment of Hesperornithiformes	Journal of Systematic Palaeontology 16(8)	Taylor & Francis Group	689~709

#### 【アイヌ民族文化研究センター・アイヌ文化研究グループ(2件)】

執筆者	タイトル	出典	出版社・発行者	ページ
小川正人	教科書とアイヌ像 : アイヌ民族と教科書の問題の現在	世界の教科書にみる昔話	三弥井書店	100~104
大坂拓	珍品図鑑 アイヌ民族の矢筒	ビオストーリー 30 号	生き物文化誌学会	1

### (3) 学会、研究会での発表

#### 平成 30 年度の学会、研究会での発表(16 件)

##### 【自然研究グループ(5 件)】

発表者	タイトル	研究会・学会名	期日	会場
三谷智広・富塚龍・西本豊弘・添田雄二	1640~1663 年に限定される貝塚からみた近世アイヌ文化期の生業活動 —北海道伊達市カムイタブコブ下遺跡の貝塚資料から—	日本動物考古学会	6 月 17 日	石川県立歴史博物館(金沢市)

青野友哉・渋谷綾子・添田雄二	栽培作物の特定のための作物痕跡の検出と大根の放置実験による検証	日本文化財科学会	7月 7日	奈良女子大学(奈良市)
添田雄二・杉山真二・中村賢太郎ほか	小氷期と巨大噴火・津波がアイヌ民族に与えた影響Ⅱ	日本文化財科学会	7月 7日	奈良女子大学(奈良市)
富塚龍・永谷幸人・青野友哉・添田雄二	伊達市カムイタコブ下遺跡	北海道考古学会	12月 8日	北海道大学(札幌市)
圓谷昂史・水島未記	北海道の漂着生物を活用した体験・展示キットの開発と活用事例	第 18 回漂着物学会 和歌山・南紀白浜大会	10月 13日	白浜町中央公民館(和歌山県白浜町)

#### 【歴史研究グループ(5件)】

発表者	タイトル	研究会・学会名	期日	会場
右代啓視・鈴木琢也	2018年国後島調査報告	北方島文化研究会	9月 2日	斜里ウネベツ保養センター(斜里町)
三浦泰之	作者・栗田鉄馬について	公開研究報告会「余市のアイヌ文化を考える—明治50年のクマ送り画を中心に—」	4月 22日	余市町中央公民館(余市町)
東俊佑	北蝦夷地ウショロ場所アイヌの「給料勘定」について	北海道・東北史研究会例会	5月 26日	早稲田大学(東京都新宿区)
東俊佑	ションコ乙名宛蝦夷地奉行の定書について	日露国際研究集会「コレクション形成史からみる日露関係史 II」	6月 3日	北海道大学(札幌市)
東俊佑	日本における前近代サハリン・樺太史研究の動向: 1264-1867	サハリン・樺太史研究会	12月 1日	北海道大学(札幌市)

#### 【生活文化研究グループ(2件)】

発表者	タイトル	研究会・学会名	期日	会場
池田貴夫	節分で落花生を撒くことについて	日本民俗学会第 70 回年会	10月 14日	駒澤大学(東京都世田谷区)
尾曲香織	北海道における新郎新婦の披露と「結婚祝賀会」－足寄郡陸別町の事例から－	日本民俗学会第 70 回年会	10月 14日	駒澤大学(東京都世田谷区)

#### 【博物館研究グループ(2件)】

発表者	タイトル	研究会・学会名	期日	会場
堀繁久	北海道のゲンゴロウ－その種類と生息環境－	北海道自然史研究会	2月 23日	北海道大学(札幌市)
杉山智昭	アイヌ民族文化財保存修復体制の確立にむけたX線 CT による資料現況調査	文化財保存修復学会	6月 17日	高知市文化プラザかるぽーと(高知市)

#### 【アイヌ民族文化研究センター・アイヌ文化研究グループ(2件)】

発表者	タイトル	研究会・学会名	期日	会場
小川正人	「北海道開拓記念館」から「北海道博物館」へ－アイヌ民族・アイヌ文化の展示のあり方を中心に－	国立歴史民俗博物館共同研究「学知と教育から見直す近代日本の歴史像」2018年度第3回研究会	10月 28日	北海道博物館(札幌市)
大坂拓	国立民族学博物館所蔵の余市の民具文化を考える	研究報告会 余市のアイヌ	4月 22日	余市町中央公民館(余市町)

#### (4) 招待講演(講座・講演会)等への職員派遣

平成 30 年度の招待講演(講座・講演会)等への職員派遣(91 件)

##### 【学芸部長(1 件)】

氏名	種別	内容・タイトルなど	行事名など	主催または依頼先	期間
舟山直治	講師	ミニ・フィールドワーク in 北海道博物館(「北海道の歴史とくらし、人びとのくらしを支えた道具。」)	学外授業	北海道武藏女子短期大学教養学科	11月 17 日

##### 【自然研究グループ(11 件)】

氏名	種別	内容・タイトルなど	行事名など	主催または依頼先	期間
水島未記	講師	サハリンのニヴフはなぜベリー類を多用するのか? 植物相・植生から見た自然資源の利用	北海道民族学会 2018 年度第 2 回研究会	北海道民族学会	11月 24 日
水島未記	講師	のっぽろの森には何種の種子植物があるか?	ボランティア・レンジャー(自然観察員)レベルアップ研修会	北海道ボランティア・レンジャー協議会	2月 17 日
添田雄二	講師	近未来に北海道と日本を必ずおもう超巨大津波	ユニ・カレッジ	由仁町教育委員会	8月 23 日
表渕太	講師	(朱鞠内湖畔の自然)	地域環境普及事業「デイキャンプ in 朱鞠内」	北海道上川総合振興局	10月 13 日
表渕太	シンポジウム発表者	DNA から読み解くシマクロウの歴史	日本動物学会公開シンポジウム「秘められた北の動物誌～海・川・森にその生態を追う～」	日本動物学会	10月 21 日
圓谷昂史	講師	博物館の効果的な利用方法と「環境教育」への展開	三笠市教育研究所 夏季研修会	三笠市教育研究所	8月 2 日
圓谷昂史	講師	海洋ゴミを考える～だれでもできる取り組みや楽しみ方～	平成 31 年度消費生活講座	公益財団法人 札幌消費者協会	8月 31 日
圓谷昂史	講師	海洋ゴミ問題に取り組む～北海道とサハリンの調査から～	平成 30 年度「廃棄物資源循環学会北海道支部施設見学会」	一般財団法人 廃棄物資源循環学会北海道支部	11月 2 日
圓谷昂史	講師	博物館を活用した学習活動の展開～北海道博物館を事例に～	教育実践演習	北海道教育大学札幌校	11月 28 日
圓谷昂史	講師	海洋ゴミを考える～北海道とサハリンの調査記録から～	海ごみについて考える	北海道海浜美化を進める会	12月 1 日
圓谷昂史	講師	“越境”海洋ゴミを考える～北海道とサハリンの調査記録から～	第 12 回 さっぽろスリムネットワーク	ごみ減量実践活動ネットワーク	2月 23 日

##### 【歴史研究グループ(60 件)】

氏名	種別	内容・タイトルなど	行事名など	主催または依頼先	期間
右代啓視	講師	北海道の人類活動史 I	高齢者市民講座	札幌市社会教育協会	5月 16 日
右代啓視	講師	北海道の歴史	平成 30 年度北海道職員研修 新採用職員 I (前期)	北海道総務部人事課	5月 24 日
右代啓視	講師	北海道の歴史	平成 30 年度北海道職員研修 新採用職員 I (前期)	北海道総務部人事課	5月 31 日
右代啓視	講師	北海道の人類活動史 II	高齢者市民講座	札幌市社会教育協会	8月 17 日
右代啓視	講師	北海道の人類活動史 III	高齢者市民講座	札幌市社会教育協会	11月 16 日
右代啓視	講師	北海道の歴史ロマン 北海道のチヤン	連続講座 映像によりがえる北海道 2019	北海道立図書館	11月 24 日
右代啓視	講師	北方四島における歴史・文化専門家交流	北方領土関係情報提供セミナー in 函館	北海道総務部北方領土対策本部長	1月 15 日

右代啓視	講 師	北方の人類活動史 I	高齢者市民講座	札幌市社会教育協会	2月 15 日
右代啓視	講 師	擦文文化のころの古環境	余市町探訪講座	余市町水産博物館	2月 23 日
三浦泰之	講 師	北海道 150 年の歩み	武田薬品工業株式会社札幌支 店会議	武田薬品工業株式会社	4月 6 日
三浦泰之	講 師	北海道の歴史	平成 30 年度北海道職員研修 新採用職員 I (前期)	北海道総務部人事課	4月 19 日
三浦泰之	講 師	北海道 150 年に寄せて—北海道の 命名、開拓に関するいくつかの話題	平成 30 年春犯罪のない安全安 心北見ミト大会	北見警察署・北見市教育 委員会	5月 9 日
三浦泰之	講 師	松浦武四郎の生涯と愛別	北海道命名 150 年記念講座	愛別町教育委員会	5月 16 日
三浦泰之	講 師	北海道 150 年事業のキーパーソン、 松浦武四郎の生涯	北海道私立中学高等学校保護 者会連合会「講演会」	北海道私立中学高等学 校保護者会連合会	6月 2 日
三浦泰之	講 師	幕末維新を生きた旅の巨人 松浦 武四郎	北海道 150 年物語 松浦武四郎 祭り in 札幌 2019	北海道 150 年物語実行委 員会	7月 8 日
三浦泰之	講 師	ここがすごいぞ！ 北海道博物館特 別展「幕末維新を生きた旅の巨人 松浦武四郎」	北海学園大学×北海道博物館 公開セミナー	北海学園大学開発研究 所	7月 12 日
三浦泰之	講 師	松浦武四郎の歩いた小平町	平成 30 年度おびらふるさと塾	小平町教育委員会	7月 18 日
三浦泰之	講 師	北海道 150 年の歩み	全国都道府県土地開発公社連 絡協議会第 54 回総会	北海道土地開発公社	7月 19 日
三浦泰之	講 師	北海道 150 年の歩み	愛鈴会講演会	愛鈴会(株)スズケン	7月 19 日
三浦泰之	講 師	松浦武四郎の人物像	北海道命名 150 年記念講演会 「北海道の名付け親」松浦武四郎	浜頓別町教育委員会	8月 5 日
三浦泰之	講 師	松浦武四郎の蝦夷地探査と北海道 の山道	北海道命名 150 年記念 北海道 山道シンポジウム 2018	北海道留萌振興局	8月 18 日
三浦泰之	講 師	松浦武四郎の足跡	修学旅行事前学習	美唄市立南美唄小学校	8月 21 日
三浦泰之	講 師	北海道 150 年事業のキーパーソン 、幕末維新を生きた旅の巨人 松 浦武四郎の生涯	平成 30 年度いわみざわ市民大 学	岩見沢市教育委員会	8月 22 日
三浦泰之	講 師	松浦武四郎から学ぶこと —郷土史 の視点	遠軽町埋蔵文化財センター第 2 回企画展記念シンポジウム「郷 土史の保存と歴史観光への活 用に向けて」	えんがるの宝を守り、未来 につなげるプロジェクト実 行委員会	9月 20 日
三浦泰之	講 師	松浦武四郎と書画	北海道 150 年記念展「松浦武四 郎と幕末・明治 北海道ゆかりの 人の書」展ギャラリートーク	小原道城書道美術館	9月 22 日
三浦泰之	講 師	北海道 150 年事業のキーパーソン・ 松浦武四郎の生涯とオホツク	北海道 150 年記念フォーラム「オ ホツクの歩みと未来」	北海道オホツク総合振 興局	9月 27 日
三浦泰之	講 師	好古家武四郎のネットワークと人物 像	フォーラム「松浦武四郎研究の 最前線 2018」	近代博物館形成史研究会 (研究代表者:國學院大學 博物館 内川隆志氏)	9月 29 日
三浦泰之	講 師	(シンポジウムのパネリスト)	松浦武四郎生誕二百年記念シ ンポジウム「一畠敷の世界を探 求する」	国際基督教大学博物館 湯浅八郎記念館	10月 6 日
三浦泰之	講 師	北海道の歴史	4 年生への特別講演 北海道の 歴史	江別市立大麻東小学校	10月 11 日
三浦泰之	講 師	松浦武四郎の生涯をたどる(前編)	平成 30 年度根室市民大学講座	根室市総合文化会館	10月 12 日
三浦泰之	講 師	松浦武四郎の生涯をたどる(後編)	平成 30 年度根室市民大学講座	根室市総合文化会館	10月 19 日

三浦泰之	講師	松浦武四郎がみた宗谷・樺太 — その生涯を中心に—	稚内市樺太記念館開館記念講座～その2～ 平成30年度稚内学「古代～近世の宗谷・樺太」	稚内市教育委員会	11月 4日
三浦泰之	講師	(鼎談のパネリスト)	幕末維新を三重から語る武四郎 鼎談	三重県総合博物館	11月 11日
三浦泰之	講師	松浦武四郎と新冠	新冠町郷土資料館事業 ふるさと再発見講座 北海道150年	新冠町教育委員会	11月 18日
三浦泰之	講師	松浦武四郎と北海道	札幌市中央図書館講演会	札幌市中央図書館	11月 24日
三浦泰之	講師	北海道150年事業のキーパーソン、幕末維新を生きた旅の巨人”松浦武四郎の生涯”	平成30年度ナカシベツ大学	中標津町総合文化会館	11月 25日
三浦泰之	講師	北海道150年事業のキーパーソン、松浦武四郎の生涯 ーなぜ、いま、松浦武四郎が注目されているのか？ー	金融広報アドバイザー研修会	北海道金融広報委員会	11月 28日
三浦泰之	講師	北海道150年事業のキーパーソン、幕末維新を生きた旅の巨人・松浦武四郎の生涯	北海道新聞釧根政経文化懇話会例会	北海道新聞釧路支社	11月 29日
三浦泰之	講師	松浦武四郎の生涯	寿都高校ボランティア部員へのレクチャー	寿都町教育委員会	12月 27日
三浦泰之	講師	武四郎研究の今	特別展関連講演会	北海道立帯広美術館	1月 14日
三浦泰之	講師	松浦武四郎の生涯	5年生への特別講演 歴史	江別市立大麻東小学校	1月 23日
三浦泰之	講師	板垣家文書から迫る入植当時の南幌の様子	平成30年度南幌町さわやかカレッジ	南幌町教育委員会	2月 6日
三浦泰之	講師	古文書の魅力～学芸員としてのこれまでの経験から～	文化財講演会	北海道文化財保護協会	2月 8日
山田伸一	講師	アイヌ語地名の近代史を考える アイヌ語地名はどう書きかえられたか		北海道北方民族博物館	5月 19日
山田伸一	講師	開拓の頃のあれこれー開拓使・動物たち・地名ー	壮瞥町山美湖大学講座	壮瞥町教育委員会	5月 25日
山田伸一	講師	北海道の歴史	平成30年度北海道職員研修 新採用職員I(前期)	北海道総務部人事課	6月 14日
山田伸一	講師	明治初期北海道の野生生物管理と駆除ーシカ・オオカミ・ヒグマ・カラス	エゾシカ捕獲認証制度受講者講演会	一般社団法人エゾシカ協会	9月 30日
山田伸一	講師	千歳川のサケ漁規制とアイヌ民族	SWSP勉強会	札幌ワイルドサーモンプロジェクト	10月 21日
山田伸一	講師	近代北海道におけるエゾシカ	美術博物館大学講座	苫小牧市美術博物館	11月 24日
山田伸一	講師	明治期北海道のサケ漁規制とアイヌ民族ー千歳川の例を中心	シリムカ文化大学	平取町	2月 15日
山田伸一	講師	1882(明治15)年に襟裳岬近くで難破したイギリス船	えりも町郷土資料館講演会	えりも町教育委員会	2月 28日
山田伸一	講師	北海道とアイヌの歴史	平成30年度北海道支所教師大会・教師地方別研修会・平成30年度教学講習会	高野山真言宗北海道宗務支所	3月 6日
鈴木琢也	講師	北海道の歴史	平成30年度北海道職員研修 新採用職員I(前期)	北海道総務部人事課	5月 17日
鈴木琢也	講師	北海道の末期古墳と阿光坊古墳群	古墳館歴史講座	おいらせ町教育委員会	10月 7日

鈴木琢也	講 師	擦文文化の物流交易について	余市町探訪講座	よいち水産博物館	2月 23日
鈴木琢也	講 師	北海道出土の須恵器と古代物流交 流	第 11 回北海道大学埋蔵文化財 調査センター調査成果報告会	北海道大学	3月 9日
東俊佑	講 師	北海道の歴史	平成 30 年度北海道職員研修 新採用職員 I (前期)	北海道総務部人事課	6月 21 日
東俊佑	講 師	蝦夷地の測量と地図作製の歴史	「測量の日」特別講演会	日本測量協会北海道支部	6月 29 日
東俊佑	シンポジウ ム発表者	北蝦夷地ウシロ場所における漆器 の流入とアイヌの給料勘定	「アイヌの漆器に関する学際的 研究」シンポジウム	明治大学(東京都 千代田区)	
東俊佑	講 師	蝦夷地の境界と交易の歴史	第 56 回北海道高等学校教育研 究大会 教科別集会(日本史)	北海道高等学校教育研 究会	1月 10 日

#### 【生活文化研究グループ(11件)】

氏名種別	内容・タイトルなど	行事名など	主催または依頼先	期間
池田貴夫	講 師 積雪寒冷地の生活と諸問題	(リハビリテーション科学部第 3 学年への講義)	北海道医療大学	6月 28 日
池田貴夫	講 師 北海道の長い歴史 ーそのなかの 「北海道 150 年」ー	ほくやく会総会 特別講演	ほくやく会	7月 2 日
池田貴夫	講 師 北海道の長い歴史 ー『そのなかの 北海道 150 年』ー	第 9 回日本ジオパーク全国大 会・アポイ岳(北海道様似町) 大会における講演会	第 9 回日本ジオパーク全 国大会・アポイ岳(北海道 様似町) 大会実行委員会	10月 7 日
池田貴夫	講 師 北海道で再編・創造された本州由来 の文化 ー地名や季節行事からみる 文化の伝承ー	さっぽろ市民カレッジ 2018 秋 期講座「日本各地の文化が息づ く北の大地 一道産子の感性を 再発見しようー」	札幌市生涯学習センター	10月 18 日
池田貴夫	講 師 季節行事編 七夕にはロウソクも らう? ー季節行事に見る北海道 らしさー	連続講座「今こそ北海道学! ー 北海道らしさの秘密を探るー」	株式会社道新文化センタ ー	10月 27 日
山際秀紀	講 師 農業編 米は食いたし ー農業に 見る北海道らしさー	連続講座「今こそ北海道学! ー 北海道らしさの秘密を探るー」	株式会社道新文化センタ ー	10月 20 日
会田理人	講 師 開拓の村施設改修・展示の更新とと もに導入したインバウンド対策	道央地区博物館等連絡協議会平 成 30 年度第 1 回研修会	道央地区博物館等連絡協 議会	5月 31 日
会田理人	講 師 漁業編 人は北に、海産物は南に ー漁業に見る北海道らしさー	連続講座「今こそ北海道学! ー 北海道らしさの秘密を探るー」	株式会社道新文化センタ ー	10月 13 日
会田理人	講 師 北海道漁業史 ー歴史から見えるコ ト・わかるコトー	アクアバイオ学特別講義	東京農業大学生物産業学 部	11月 14 日
会田理人	講 師 横太野球物語	稚内市樺太記念館開館記念講座	稚内市教育委員会	12月 1 日
青柳かつら	講 師 博物館を拠点とした 高齢者と協働 する地域学習プログラムの開発	高知県議会危機管理文化厚生委 員会調査出張	高知県議会危機管理文化 厚生委員会	8月 31 日

#### 【博物館研究グループ(1件)】

氏名種別	内容・タイトルなど	行事名など	主催または依頼先	期間
栗原憲一	講 師 事例報告 I 北海道胆振東部地震 と博物館	平成 30 年度研究協議会	日本博物館協会	3月 7 日

#### 【アイヌ民族文化研究センター・アイヌ文化研究グループ(7件)】

氏名種別	内容・タイトルなど	行事名など	主催または依頼先	期間
小川正人	講 師 「北海道旧土人保護法」とアイヌ民 族の近現代史 ー「北海道 150 年」 を考えるためにー	高校 3 学年 IR「国際社会講座」	立命館慶祥高等学校	5月 17 日

小川正人	講 師	北海道博物館が実施するアイヌ関連事業等について	民族共生象徴空間交流促進官 民応援ネットワーク企画部会・活性化部会及びアイヌ文化情報発信ネットワーク会議	アイヌ政策推進局	5月 28日
小川正人	講 師	アイヌの側からみた北海道150周年	いしかり市民カレッジ	いしかり市民カレッジ運営委員会	5月 31 日
小川正人	講 師	アイヌ民族の歴史と文化	平成30年度江別市教職員夏期セミナー	江別市教育研究所	8月 1日
小川正人	講 師	アイヌ文化の世界	見学レクチャー	真宗教団連合鹿児島支部	10月 26日
小川正人	講 師	北海道 150 年を考える－北海道博物館の展示を通して－	全道研究集会	北海道歴史教育者協議会	1月 5日
大坂拓	講 師	物質文化からみたアイヌ民族の近代	旭川市博物館第85回企画展閲覧講演会	旭川市博物館	12月 2日

## 2 資料の収集・保存・活用

当館では、北海道ならではの自然・歴史・文化に関する遺産を永く保存し、活用するため、資料の収集から受入・登録、保存管理から利活用までを、各担当者が連携しながら行っています。また、資料を良好な状態で未来につなぎ伝えるため、収蔵庫の環境整備に努めています。そのなかで、文化財保護法にもとづく公開承認施設（国宝・重要文化財等の公開に適した施設・設備・体制を備えた施設）として文化庁より承認を受けました（平成27（2015）年8月10日～平成32（2020）年8月9日まで）。

### 当館の資料

平成27（2015）年の北海道博物館の設置に伴い、北海道開拓記念館と北海道立アイヌ民族文化研究センターが所蔵していた資料は当館資料へと管理換が行われ、180,418件の資料を有する博物館として開館しました。そのうち約3,000件が、総合展示に供されています。当館の資料収集は、道民からの日常的な電話連絡等による寄贈が大部分を占めています。

北海道開拓記念館資料	北海道立アイヌ民族文化研究センター資料
北海道開拓記念館の資料収集は、昭和41（1966）年からスタートした北海道百年記念事業のなかで、昭和43（1968）年～昭和45（1970）年の3カ年、開設準備のひとつとして着手されました。この時期の資料収集は、道内各地に委嘱した開拓記念館資料調査協力員166名から提供された情報と協力をもとに、嘱託の調査収集委員と準備事務所職員が当たりました。この時期に収集された資料のうち、昭和46（1971）年4月の開館までに整理・受入された資料は約15,000件でした。開館後の資料収集は開拓記念館の学芸員によって進められ、管理換、購入、寄贈、製作、採集、寄託資料として収集されました。閉館時（平成26（2014）年度末）の資料数は166,146件でした。	北海道立アイヌ民族文化研究センターの資料収集は、購入、複写、寄贈を受けること及び伝承者・体験者等からの採録等により進められました。開所当初の平成6（1994）年には、アイヌ語地名の研究者であった故・山田秀三氏の研究資料を「山田秀三文庫」として受贈し、平成9（1997）年には、アイヌ語・アイヌ口承文芸の研究者であった故・久保寺逸彦氏の研究資料を「久保寺逸彦文庫」として受贈しました。これらのコレクションが道立アイヌ民族文化研究センターの資料の基礎となり、閉所時（平成26（2014）年度末）の資料数は33,319件でした。

### 資料収集方針

当館の資料収集は、北海道の生成、自然、歴史、文化に意義を持つものを対象としています。具体的には以下のよう性格を持つ資料を収集の対象としています。

- 1) 北海道の地学に関する資料（岩石、鉱物、化石、土壤など）
- 2) 北海道の生物に関する資料（動物、昆虫、植物、菌類及び生物と人間の関わりに関する資料など）
- 3) 北海道の先史文化および人類史に関する資料（土器、石器、骨角器、金属器、木製品など）
- 4) アイヌ民族を中心とする北方諸民族の文化の特徴、地域差、時代差、歴史等に関する資料（民具、言語、口承文芸、芸能、信仰、伝統的生活様式、歴史等に関する有形・無形の資料）
- 5) 北海道に住んだ人びとの生活に関する資料（衣・食・住など日常生活、儀礼、信仰、芸能など）
- 6) 北海道の産業に関する資料（農業、漁業、林業、鉱業、工業など）
- 7) 北海道の歴史に関する資料（文書、絵画、地図、写真、記録映画など）
- 8) 上記のものに関する無形文化資料（伝承、技術など）

### 資料審査会

館資料の適切な収集、保存、活用について協議するため、館内の内部組織として館長を会長とする資料審査会を設置しています。資料審査会は、資料収集方針に関することや資料の受入の選定など、協議を要する案件が生じた時点で、案件に関係する館内のグループからの要請にもとづき開催しています。平成30（2018）年度は11回開催しました。

## 平成 30 年度資料審査会の構成（平成 30 年 4 月時点）

会長 石森 秀三 館長  
中村 亘 アイヌ民族文化担当副館長  
山中 剛 副館長  
小川 正人 学芸副館長 兼アイヌ民族文化研究センター長 兼研究部長  
川田 宣人 総務部長 兼総務部総括グループ主幹  
舟山 直治 学芸部長  
右代 啓視 総務部企画グループ学芸主幹 兼研究部歴史研究グループ学芸主幹  
三浦 泰之 総務部企画グループ学芸主幹 兼研究部歴史研究グループ学芸主幹  
堀 繁久 学芸部博物館基盤グループ学芸主幹 兼研究部博物館研究グループ学芸主幹  
池田 貴夫 学芸部道民サービスグループ学芸主幹 兼研究部生活文化研究グループ学芸主幹  
水島 未記 学芸部社会貢献グループ学芸主幹 兼研究部自然研究グループ学芸主幹  
甲地 利恵 アイヌ文化研究グループ研究主幹 兼学芸部社会貢献グループ研究主幹  
山際 秀紀 学芸部博物館基盤グループ学芸主査 兼研究部生活文化研究グループ学芸主査  
鈴木 あすみ 学芸部博物館基盤グループ学芸員 兼博物館研究グループ学芸員

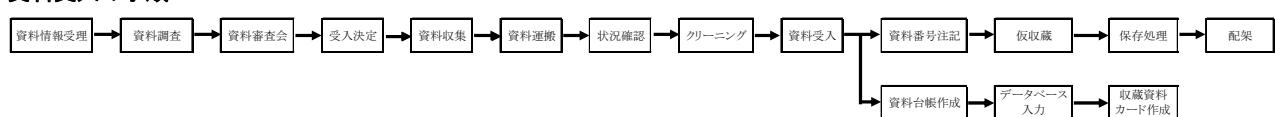
## 資料の収集

### 資料の受入・登録

資料は、受入手順に従って収集・登録し、収蔵庫に配架・保存します。

収蔵資料には収蔵番号が付され、「北海道博物館資料分類表」にもとづき、総集、記録、地学、生物、考古、民族、生活、産業、文書、美術の 10 の項目のいずれかに分類されます。受け入れた資料の情報は、全分野共通の資料台帳に登録するとともに資料データベースに入力して管理されます。

#### 資料受入の手順



### 平成 30 年度の資料収集

資料情報件数	60 件	調査収集件数	25 件
--------	------	--------	------

### 平成 30 年度分類別・受入区分別件数

分類	平成 29 年度までの累計	管 理 換	購 入	寄 贈	製 作	採 集	寄 託	登録抹消	累計(件)
0 総 集	3,047								3,047
1 記 録	11,084			1					11,085
2 地 学	7,309			31		90			7,430
3 生 物	7,879			35					7,914
4 考 古	1,717								1,717
5 民 族	5,990			1					5,991
6 生 活	36,117			2					36,119
7 産 業	21,372			13					21,385
8 文 書	87,911			236					88,147
9 美 術	754			1					755
合 計	183,180			320		90			183,590

## 平成 30 年度地域別寄贈収集資料件数(320 件)

地 域	札幌市	江別市	石狩市	その他道内	道外	計
資 料 件 数	21	21	4	39	235	320

## 一括資料目録

まとまった資料群については、資料群の概要や特徴などに関する解説を付けて紹介する『一括資料目録』を作成・発行しています。

平成 30(2018) 年度現在の北海道博物館一括資料目録は次のとおりです。

(2018 年 4 月現在、頒布はしておりませんが、北海道博物館ホームページから PDF ファイルが無料ダウンロードできます)

### 北海道博物館一括資料目録

No.	タイトル	発行年月日
第 1 集	弥永コレクション	平成 29 (2017) 年 10 月 20 日

## 資料の収蔵と保存管理

受入・登録された資料は清掃され、分野別・形態別に割当てた 5 室の収蔵庫に収蔵します。大型資料は木製棚に、小型資料は木・紙・プラスチック製の整理箱等に納め、木製棚又はスチール棚に配架しています。収納棚等は資料の性質、形態に合わせ出納が容易に行われるよう配慮しています。

資料保存の環境を維持するため、当館では温湿度管理、定期清掃などといった、薬剤だけに頼らない方法による総合的有害生物防除管理 (IPM) に取り組んでいます。具体的には、収蔵庫内の温度を夏季 25°C・冬季 22°C、湿度を 55±5% に保持するほか、二酸化炭素バッグによる資料の殺虫処理、捕虫トラップの回収・設置・調査、落下菌による環境調査などを実施しています。また、情報の一元化を図り、総合的な温湿度管理を実施していくため、無線タイプのデータロガーシステムも導入しています。

そのほかに、当館の施設管理を行う指定管理者と収蔵環境等に関する連絡会議を毎月行い、情報の共有を図っています。

### 資料保存に関する取り組み(平成 30 年度)

資料収蔵環境管理等に関する連絡会議の開催数 12 回

IPM に関する作業の実施回数 ※下記の⑥を除く 461 回

IPM の実施内容	回数
① 捕虫トラップ(展示場と収蔵庫における設置・回収と調査)	12 回実施
② 収蔵庫内の微生物汚染を確認するための落下菌調査	1 回実施
③ 特別展示室と収蔵庫の空気質調査	3 回実施
④ 担当職員による収蔵庫清掃	12 回実施
⑤ 全職員による展示室、収蔵庫の資料チェックとクリーニングを兼ねた大掃除	1 回(3 日間)実施
⑥ 新展示ケースなどの「からし」(接着剤等に含まれる有害物質の除去)作業	恒常的に実施
⑦ 収蔵庫搬入前の資料に対する、殺虫バッグによる二酸化炭素殺虫処理	14 回実施
⑧ 収蔵庫内巡回(庫内点検、ロガー目視、害虫の除去)	417 回実施
⑨ その他、収蔵環境の環境維持作用・調査(除湿機稼働、隙間のシーリング、地震などの異常時対応)	1 回実施

## 資料情報の管理

---

収蔵された資料は、1点ごとに写真を撮影し、資料の年代、地域、形状、由来などの基礎情報をデータベースに入力し、北海道博物館収蔵資料カード（以下、収蔵資料カード）を作成します。このデータベースと収蔵資料カードは、個々の資料の第一次情報となり、企画展示の計画作りや利用者からのレファレンス対応など、当館の博物館活動の原点となるものです。

作成された収蔵資料カードは収蔵番号順に資料情報室に収められ、資料のデータベースは北海道博物館情報システムとして資料管理や利活用を図るため、随時データの追加入力をしています。

また、他機関や研究者の利用の便宜を図るとともに、利用者の知的興味に応えていくため、収蔵資料目録などを作成するとともに、資料情報の一部を当館のホームページで公開しています。

## 資料の活用

---

館の収蔵資料は総合展示や特別展などに展示されるほか、博物館関係者、一般利用者や研究者等の調査・研究を目的とした利用（特別観覧）にも供されます。また、博物館や学校等の機関への資料の貸し出しや、館資料の写真や複写等の印刷物やホームページ等への利用の受け付け（模写品等使用）も行っています。

平成30年度資料利用件数

	資料の貸出		特別観覧		模写品等使用(北海道博物館)		模写品等使用(開拓の村)	
	利用件数	資料点数	利用件数	資料点数	利用件数	資料点数	利用件数	資料点数
博物館関係*	29	757	20	907	36	244	5	8
報道機関	1	1	10	0	23	52	12	123
官公庁	0	0	6	124	8	14	3	6
出版社	0	0	3	21	43	154	9	17
その他	1	11	27	244	16	85	14	79
計	31	769	66	1,296	126	549	43	233

\*教育委員会・学校含む

### 3 展示

当館の展示活動は、総合展示室、特別展示室、北海道庁旧本庁舎（通称「赤れんが庁舎」（札幌市中央区））で行われています。各展示は、それぞれの機能を果たしながらも互いに有機的に結びついており、さまざまな人びとが繰り返し訪れ、親しまれる博物館をめざし、北海道ならではの自然・歴史・文化に関わる資料を最大限に活かす展示を展開しています。また、期間を限って、特別展や企画テーマ展などの企画展示を年に数回開催しています。

展示場や展示資料の保守点検・管理を日常的に実施するとともに、年に1回、2日間にわたって大掃除を行っています。

#### 総合展示室

総合展示は、1階と2階を合わせて3,011m<sup>2</sup>の広さがあります。北海道博物館の収蔵資料の中から実物資料を厳選し、さらに模型、ジオラマ、映像装置など、さまざまなメディアを使った展示を行っています。また、来るたびに違う、飽きない展示を演出するため、展示の定期的な入替を行っています。

平成30年度の総合展示の入替件数(クローズアップ展示コーナーを除く)(48点)

テーマの場所	小テーマ名	入替日	資料番号	資料名(※入れ替え後の資料)	
プロローグ(5点)	ナウマンゾウ	4月6日	61789	ナウマンゾウ右上腕骨	
		7月13日	61783 —	ナウマンゾウ左上顎第三大臼歯 ナウマンゾウ恥骨	
		10月2日	61788	ナウマンゾウ肩甲骨	
		12月13日	61800	ナウマンゾウ大腿骨	
第1テーマ(24点)	大地のなりたち	4月6日	125795 125796	ヒゲクジラ下顎骨 ヒゲクジラの椎骨	
		7月13日	125798 131758	セイウチの下顎骨 キタオットセイ焼骨	
		10月2日	125795 125796	ヒゲクジラ下顎骨 ヒゲクジラ椎骨	
		12月13日	71493-2 71667 71557 71588 71451 61751 79698 71320 71325 71342 71351 71360 71398 71326 71330 — —	71493-2 71667 71557 71588 71451 61751 79698 71320 71325 71342 71351 71360 71398 71326 71330 — —	ダイシャカニシキガイ ムカシオナガトリガイ エゾキンチャクガイ エゾイガイ エゾタマキガイ(2点) エゾワスレガイ エゾシラオガイ エゾチドリガイ エゾチドリガイ エゾフネガイ エゾフネガイ チシマタマガイ オホーツクバイ ヒゲマキナワボラ ヒゲマキナワボラ コシバニシキガイ コシバニシキガイ
		12月14日	22770 11472 124655	着物 前掛け 脚絆	

			114436	はちまき
			27051	儀礼用冠
			125840	編袋
	いろいろな物語	12月14日	177252	〔二谷国松文書(六)〕
第3テーマ(7点)	四季を感じる		177830	— 神々の物語
		4月6日	—	イラスト「運動会」
		6月1日	—	イラスト「七夕」
		8月12日	—	イラスト「十五夜」
		9月24日	—	イラスト「いもの収穫」
		11月30日	—	イラスト「もちつき」
		12月28日	—	イラスト「冬のあそび」
		3月1日	—	イラスト「ニシン漁」
学芸員紹介コーナー(4点)		6月6日	184319	掛袋止金入
		—		掛袋
	11月17日	184705		選果板
	3月20日	184710		りんご収穫袋

## クローズアップ展示

普段の総合展示だけでは十分に紹介しきれない話題や、北海道博物館が所蔵する資料などを、テーマを決めて定期的に入れ替えて紹介する展示コーナーで、総合展示室内に7か所設けています。

### 平成30年度のクローズアップ展示(24件)

#### 第1テーマ(9件)

場所	タイトル	展示期間	主担当
クローズアップ展示1	巻物を読む 蝦夷国魚場風俗図巻／蝦夷風俗絵巻	4月7日(土)～7月13日(金)	東 俊佑
	古文書を読む 新着資料 フラーチューム家の古文書	7月14日(土)～12月12日(水)	東 俊佑
	屏風を読む 《江差屏風》／《桧山屏風》	12月15日(土)～2019年4月12日(金)	東 俊佑
クローズアップ展示2	新選組の元幹部隊士 永倉新八	4月7日(土)～5月25日(金)	三浦 泰之
	新選組永倉新八の養父 松前藩医杉村介庵	5月26日(土)～7月13日(金)	三浦 泰之
	「北海道の名づけ親」松浦武四郎の語られ方※	7月14日(土)～9月14日(金)	三浦 泰之
	北海道の双六あれこれ※	9月15日(土)～12月12日(水)	三浦 泰之
	北海道の引札あれこれ	12月15日(土)～2019年2月8日(金)	三浦 泰之
	開拓使のお雇い外国人 B.S.ライマンの弟子 山際永吾	2月9日(土)～4月12日(金)	三浦 泰之

※ 北海道150年事業関連

#### 第2テーマ(6件)

場所	タイトル	展示期間	主担当
クローズアップ展示3	山田秀三とアイヌ語地名を歩く—旭川一	4月7日(土)～7月13日(金)	小川 正人
	人と歴史と 一川村カ子トと旭川一※	7月14日(土)～12月12日(水)	小川 正人
	伝承者が生きた近現代 四宅ヤエさん	12月15日(土)～2019年4月12日(金)	田村 雅史
クローズアップ展示4	文書や絵画に見るアイヌの芸能	4月7日(土)～7月13日(金)	田村 雅史
	仕事と暮らしのうつりかわり1 毒矢の禁止、そこからの歩み※	7月14日(土)～12月12日(水)	大坂 拓
	1870～1920年ごろの札幌	12月15日(土)～2019年4月12日(金)	小川 正人

※ 北海道150年事業関連

### 第3テーマ(3件)

場所	タイトル	展示期間	主担当
クローズアップ展示5	岩手県から北海道へ渡った神楽	4月7日(土)～7月13日(金)	舟山 直治
	集治監と囚人労働※	7月14日(土)～12月12日(水)	山田 伸一
	北海道の織維産業	12月15日(土)～2019年4月12日(金)	山際 秀紀

※ 北海道150年事業関連

### 第4テーマ(3件)

場所	タイトル	展示期間	主担当
クローズアップ展示6	懐かしのレコード	4月7日(土)～7月13日(金)	尾曲 香織
	「北海道百年」※	7月14日(土)～12月12日(水)	会田 理人
	たくがん(北海道拓殖銀行)	12月15日(土)～2019年4月12日(金)	会田 理人

※ 北海道150年事業関連

### 第5テーマ(3件)

場所	タイトル	展示期間	主担当
クローズアップ展示7	「歩く宝石」オサムシ	4月7日(土)～7月13日(金)	堀 繁久
	「生き物たちの北海道」の150年※	7月14日(土)～12月12日(水)	水島未記
	空飛ぶ鳥の「願いの骨」	12月15日(土)～2019年4月12日(金)	表 溪太

※ 北海道150年事業関連

### 平成30年度の展示のようす



新着資料 フラーチュム家の古文書(第1テーマ)

平成30(2018)年度に寄贈されたフラーチュム家旧蔵の古文書の一部を、いち早くご紹介しました。



毒矢の禁止、そこからの歩み(第2テーマ)

アイヌ民族の仕事や暮らしのうつりかわりを紹介するシリーズです。今年度は、伝統的な狩猟方法である毒矢について、その使用が禁止された後の歩みを紹介しました。

### 来館者参加型展示

さまざまな北海道の自然・歴史・文化を楽しみながら学び、さらに考えるきっかけにしていただける展示を目指して、総合展示室内に来館者が展示物に触れることのできるハンズオン展示や、展示に加わるなどの能動的な体験ができるスペースを設けています。

#### アイヌ文化 Q & A(第2テーマ)

展示をご覧になったあとに、「アイヌ文化の、ここがもっと知りたい」といったことがあれば、用紙に書いていただき、質問などにお答えするコーナーです。



#### 総合展示2階出口付近の参加型展示

北海道をめぐる話題について、一緒に考え、より深く知るきっかけにしていただけるように、ある話題についての来館者の声を掲示しているコーナーです。平成30(2018)年度は前年度に引き続き、「北海道のココを旅したい！」というテーマで実施しました。



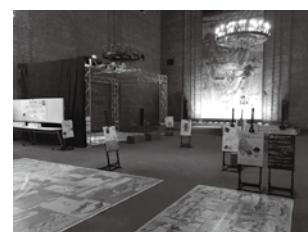
## 特別展示室

### 特別展

総合展示で扱っている北海道の自然・歴史・文化についてさらに内容を深めた展示、あるいは総合展示の内容を補う特定の分野や主題で企画するもので、外部からの資料借用なども積極的に行い、これらを通して、さまざまな外部機関との連携も図る等、特別展示室で実施する展示会としてはもっとも規模の大きなものと位置づけています。基本的に毎年1回開催しています。

### 平成30年度の特別展(1回)

名 称	幕末維新を生きた旅の巨人 松浦武四郎 一見る、集める、伝えるー	
会期(開催日数)	2018年6月30日(土)~8月26日(日) (休館日を除く50日間)	
観 覧 者 数	44,477人(第2会場を含む)	展示構成 三浦泰之(チーフ)、遠藤志保、鈴木琢也、栗原憲一
観 覧 料	特別展観覧料:一般1,000円(850円)、大学生・高校生350円(250円) 特別展示・総合展示観覧セット券:一般1,300円(1,200円)、大学生・高校生450円(400)円 ※( )の中は10人以上の団体料金 ※第2会場「こども体験展示室 武四郎を楽しもう!」(記念ホール)は無料	
内 容	<p>〈北海道の名付け親〉と呼ばれる松浦武四郎(1818~1888)は、幕末期に北海道を6回踏査したことは知られていますが、〈情報通〉や〈蒐集家〉としても有名でした。強い好奇心と情熱のもと、旅に生きた希代の生涯を、武四郎が記した記録、集めた古物などの多くの資料とともに、たどりました。</p> <p>また、第2会場「こども体験展示室 武四郎を楽しもう!」では、遊びながら武四郎や北海道について学ぶコンテンツとして、「北海道179市町村サイコロキャラメル」、巨大武四郎涅槃図などを設置しました。</p> <p>なお、この展示会は北海道博物館第4回特別展として開催した後、三重県総合博物館(2018年9月15日~11月11日)ならびに北海道立帯広美術館(2018年12月15日~2019年2月11日)に巡回しました。</p>	
関連普及行事	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講演会 「武四郎の道は未来へと続く」(山本命氏)</li> <li>・ミュージアムカレッジ 「特別展 ここが見どころ!」、「1818一生と死」、「武四郎リレー講座」(全3回)〔「動物と植物のお話」、「漁業と考古遺物のお話」、「貝とアンモナイトのお話」〕</li> <li>・フォーラム 「松浦武四郎研究のこれまでとこれから」(田端宏氏、五十嵐聰美氏、内川隆志氏、太田光俊氏、谷本晃久氏、三浦泰之)</li> <li>・子どもクラブ 「めざせ! 武四郎 夏の思い出絵日記スゴロクをつくろう!」、「めざせ! 武四郎 消しゴムでオリジナルはんこをつくろう!」、「めざせ! 武四郎 自分の作品で巻物をつくろう!」</li> <li>・ワークショップ 「石器をつくる」</li> <li>・ミュージアムトーク 「松浦武四郎が書いたアイヌ文化」、「〈蒐集家〉武四郎と考古遺物」</li> <li>・特別イベント 「地図を楽しもう! ー北海道ってどんなところ?ー」(協力:北海道地図株式会社)</li> <li>・はっけんイベント 「ほいホーイ磁針をつくろう!」、「『和とじ』de自由帳」</li> </ul>	
主 催	北海道博物館	
共 催	松浦武四郎記念館、朝日新聞北海道支社、北海道新聞社、毎日新聞北海道支社、読売新聞北海道支社、NHK札幌放送局、一般財団法人北海道歴史文化財団	
協 力	松阪市	
特別協賛(第2会場)	一般財団法人北海道歴史文化財団、道南食品株式会社	



## 企画テーマ展

当館収蔵資料を中心とする企画展示で、年に数回、開催します。総合展示とは別に、各研究グループ等での研究成果や北海道の自然・歴史・文化に関わる特定のテーマを掘り下げたり広く捉えたりする展示や、当館のコレクション紹介、新着資料紹介等、数多くの館蔵資料を紹介する展示などを実施しています。観覧は無料です。

### 平成30年度の企画テーマ展(3回)

名 称	第11回企画テーマ展 野幌森林公園いきもの図鑑		
会期(開催日数)	2018年4月27日(金)～6月3日(日) (休館日を除く33日間)		
観 覧 者 数	12,060人	展示構成	水島未記(チーフ)、堀繁久、表渢太
内 容	道立自然公園に指定されて50年を迎えた野幌森林公園。大都市近郊にまとまつた面積の森林が残る、世界的にも貴重なこのエリアに生きる植物や野鳥、昆虫などの数々を、北海道博物館所蔵標本を中心に紹介しました。		
関連普及行事	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ミュージアムカレッジ「のっぽろの森の生き物たち」</li> <li>・ミュージアムトーク「野幌森林公園の花たち」</li> <li>・自然観察会「エゾアカガエルのラブコールを聴こう」、「落ち葉の下のカタツムリをさがそう」</li> <li>・スタンプラリー「スタンプでいきもの採集！」</li> <li>・はっけんイベント「春の野幌森林公園 ポップアップカードをつくろう！」</li> </ul>		
共 催	一般財団法人北海道歴史文化財団、野幌森林公園自然ふれあい交流館		
協 力	野幌森林公園植物調査の会、北海道クロテン保存手法検討チーム		



名 称	第12回企画テーマ展 りんご農家の道具		
会期(開催日数)	2018年9月21日(金)～11月25日(日) (休館日を除く57日間)		
観 覧 者 数	10,085人	展示構成	山際秀紀(チーフ)、会田理人、青柳かづら、山田伸一、鈴木あすみ
内 容	あまくて、おいしい「りんご」は、1年をつうじて手間をかけて育てられています。北海道のりんご栽培の歴史や、りんごのある風景などについて、2017年に北海道博物館で収集した資料を中心に紹介しました。		
関連普及行事	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ミュージアムカレッジ「博物館の産業資料を読む」</li> <li>・ちゃれんが子どもクラブ「やってみよう、ステンシル！」</li> <li>・ミュージアムトーク「りんご農家で使われた道具のいろいろ」</li> </ul>		
協 力	一般財団法人北海道歴史文化財団		



名 称	第13回企画テーマ展 アイヌ民族の文化財を未来へつなぐ ～博物館のはたす役割～		
会期(開催日数)	2019年2月8日(金)～4月7日(日) (休館日を除く51日間)		
観 覧 者 数	8,845人※	展示構成	杉山智明(チーフ)、長田佳宏氏(平取町立二風谷アイヌ文化博物館)、堀繁久
内 容	博物館では、収められているアイヌ民族資料を後世へ守り伝えるため、様々な取り組みが行われています。本展示では、普段見えない博物館の裏側で実施されている活動について、資料を交えて紹介しました。 (※総観覧者数のうち、平成30年度内の観覧者実績は7,187人)		
関連普及行事	特別イベント「博物館のバッケヤードを見てみよう」		
共 催	平取町立二風谷アイヌ文化博物館		
協 力	国立アイヌ博物館設立準備室、奈良国立博物館、奈良大学		



## その他の展示会

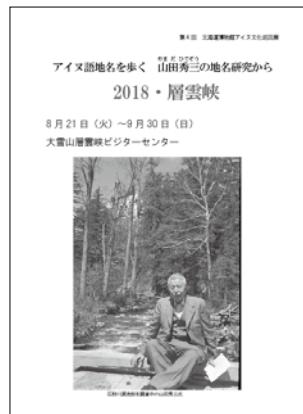
### 平成 30 年度の その他の展示会

平成 30 (2018) 年度は、国立科学博物館による巡回展を当館を会場として開催しました。また、前年度に引き続き、道内市町村等の協力のもと、「アイヌ文化巡回展」を開催しました。

名 称	国立科学博物館 巡回ミュージアム 「生命のれきしー君につながるものがたりー」		
会期(開催日数)	2018 年 12 月 8 日 (土) ~2019 年 1 月 20 日 (日) (休館日を除く 31 日間)		
観 覧 者 数	13,101 人	展示構成	圓谷昂史 (チーフ) 、添田雄二
場 所	当館特別展示室		
内 容	地球が誕生してから 46 億年。地球やそこに住む生き物たちはどのような道のりを歩んできたのでしょうか。岩石、化石や恐竜の骨格標本などと一緒に、地球のれきし・生命のれきしをたどる 46 億年のものがたりを紹介する展示を実施しました。		
関連普及行事	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別イベント「えほん meets 博物館」</li> <li>・ちやれんが子どもクラブ「始祖鳥をつくってみよう！」</li> <li>・特別イベント「アロサウルスになってみよう！」</li> <li>・特別イベント「北海道化石フェスト'2019 at 北海道博物館」</li> <li>・ミュージアムトーク「生命のれきし」</li> <li>・ワークシート 「北海道博物館で化石をさがそう」</li> </ul>		
主 催	国立科学博物館、北海道博物館、一般財団法人北海道歴史文化財団		



名 称	第4回 アイヌ文化巡回展 アイヌ語地名を歩く～山田秀三の地名研究から～ 2018層雲峠		
会 期	2018年8月21日(火)~9月30日(日)		
観 覧 者 数	8,792 人		
場 所	大雪山国立公園層雲峠ビジターセンター(上川郡上川町)		
内 容	アイヌ語地名研究の第一人者である、故・山田秀三氏の資料から、層雲峠を中心とする上川町内や石狩川上流域の地名調査の資料と著作などを紹介しました。		
関連普及行事	—		
共 催	層雲峠地区自然ふれあい利用協議会(層雲峠ビジターセンター管理運営団体)		



名 称	第5回 アイヌ文化巡回展 アイヌ語地名を歩く～山田秀三の地名研究から～ 2018標津		
会 期	2018年10月6日(土)~10月21日(日)		
観 覧 者 数	2,164 人		
場 所	標津町生涯学習センター「あすばる」(標津郡標津町)		
内 容	アイヌ語地名研究の第一人者である、故・山田秀三氏の資料から、標津町を中心とする根室管内の地名調査の資料と著作などを紹介しました。		
関連普及行事	—		
共 催	標津町教育委員会		



**北海道博物館 特別展・企画テーマ展・その他の展示会（平成27年4月～平成31年3月現在）**

**特 別 展**

回 数	名 称	展 示 期 間	日 数	入場者数
第1回	夷曾列像 一蝦夷地イメージをめぐる人・物・世界ー	2015年9月5日～11月8日	56日	51,046人
第2回	ジオパークへ行こう！～恐竜、アンモナイト、火山、地球の不思議を探す旅～	2016年7月9日～9月25日	68日	59,243人
第3回	プレイボール！～北海道と野球をめぐる物語～	2017年7月8日～9月24日	68日	19,565人
第4回	幕末維新を生きた旅の巨人 松浦武四郎 一見る、集める、伝えるー	2018年6月30日～8月26日	50日	44,477人

**企 画 テ ー マ 展**

回 数	名 称	展 示 期 間	日 数	入場者数
第1回	学芸員 おすすめの1点 ようこそ北海道博物館へ	2015年4月18日～6月7日	44日	23,889人
第2回	鶴	2015年6月27日～8月16日	44日	15,091人
第3回	北海道のアンモナイトとその魅力	2015年11月28日～2016年1月17日	36日	6,071人
第4回	神様おねがい！～地域と人をむすぶ祈りのかたちー	2016年2月27日～4月10日	38日	5,324人
第5回	アイヌ民族資料を守り伝える力	2016年4月28日～6月5日	34日	9,419人
第6回	きれい？不思議？楽しい！？漂着物 一北の海辺でお宝みつけ！ー	2016年10月14日～11月27日	39日	6,139人
第7回	あつたかく住まい 一北海道・住まいの道のりー	2017年2月3日～3月31日	49日	5,445人
第8回	夜の森 ようこそ！動物たちの世界へ	2017年4月28日～6月4日	33日	10,484人
第9回	弥永コレクション	2017年10月20日～12月24日	54日	8,354人
第10回	カムイとアイヌの ものがたり	2018年2月2日～4月8日	57日	7,247人
第11回	野幌森林公園いきもの図鑑	2018年4月27日～6月3日	33日	12,060人
第12回	りんご農家の道具	2018年9月21日～11月25日	57日	10,085人
第13回	アイヌ民族の文化財を未来へつなぐ ー博物館のはたす役割ー	2019年2月8日～4月7日	51日	8,345人

**藏 出 し 展**

回 数	名 称	展 示 期 間	日 数	入場者数
第1回	アイヌ民族の造形美 ー北海道博物館所蔵の木盆ー	2016年12月22日～2017年1月15日	18日	1,632人

**ア イ ヌ 文 化 巡 回 展**

回 数	名 称	展 示 期 間	日 数	入場者数
第1回	アイヌ語地名を歩く ～山田秀三の地名研究から～ 2016枝幸	2016年7月5日～9月4日		2,705人
第2回	アイヌ語地名を歩く ～山田秀三の地名研究から～ 2016美幌	2016年10月8日～11月27日		1,014人
第3回	アイヌ語地名を歩く ～山田秀三の地名研究から～ 2017羅臼	2017年7月22日～10月18日		952人
第4回	アイヌ語地名を歩く ～山田秀三の地名研究から～ 2018層雲峠	2018年8月21日～9月30日		8,792人
第5回	アイヌ語地名を歩く ～山田秀三の地名研究から～ 2018標津	2018年10月6日～10月21日		2,164人

**そ の 他 の 展 示**

名 称	展 示 期 間	日 数	入場者数
北海道・アルバータ州姉妹提携35周年記念事業 「Across Borders: 石川直樹写真展」	2015年11月28日～2016年1月17日	36日	4,390人
秩父宮記念スポーツ博物館北海道巡回展 「2020東京オリンピック・パラリンピックがやつてくる」	2017年2月3日～3月17日	37日	4,267人
「中島宏章写真展 あなたの街のコウモリの森」	2017年4月28日～6月4日	33日	10,484人
国立科学博物館 巡回ミュージアム 「生命のれきしー君につながるものがたりー」	2018年12月8日～2019年1月20日	31日	13,101人

## 赤れんがサテライト

北海道博物館赤れんがサテライトは、北海道庁旧本庁舎（赤れんが庁舎）にある北海道博物館のサテライトスペースです。北海道博物館の見どころを、選りすぐりの資料で紹介するほか、展示会（特別展、企画テーマ展）の案内や、道内のさまざまな博物館の活動を紹介しています。

**観覧者数:**695,905人(平成30年度累計)



北海道博物館赤れんがサテライト入口付近(平成28年7月撮影)



ポケット学芸員による多言語解説(平成28年7月撮影)

## 休憩ラウンジ

来館中の休憩や飲食などでご利用いただいている休憩ラウンジ（利用可能人数 約100名）において、道民参加型の展示や北方領土コーナーを設置しています。



道民参加型展示

平成30年度は北海道化石会の協力で「アンモナイト」の展示を実施しています。



北方領土コーナー

北方領土問題に関する広報コーナーとして、北海道総務部北方領土対策本部の協力によりパネル等を設置しています。

## 4 教育普及・来館者サービス

当館の来館者サービスは、さまざまな人びとが繰り返し訪れ、親しまれる「わかりやすく、おもしろく、ためになる」博物館を目指し、調査研究の成果を活用しながら北海道の自然・歴史・文化をより深く知ることができるよう利用者の視点に立って展開しています。来館者サービスは総合展示室、講堂、はっけん広場で実施しており、展示見学のオプションとして講堂で行う「グループブレクチャー」やはっけん広場で行う「はっけんプログラム」など、小・中学生などの団体利用向けの事業（事前申込）も実施しています。

### 総合展示室

総合展示室内では来館者がわかりやすく、おもしろく観覧することができるよう、当館職員と交流ができる「学芸員ハローデスク」の設置や気軽に参加できるイベントなどを行っています。また、入口に館内行事や施設の案内用のデジタルサイネージを設置しているほか、展示場内でのWi-Fi網を整備し、多言語解説に対応したスマートフォン用展示解説アプリ「ポケット学芸員」の活用の利便性を高めました。

#### 情報デスク

総合展示や展示資料の詳しい内容を知りたいという来館者の質問に速やかに回答するための情報窓口として、総合展示室内の1階と2階の交流ゾーンに設置しています。



#### ハイライトツアー

総合展示第1～5テーマの展示のみどころを1時間程度で説明する展示解説を行っています。（毎日14:00～15:00）



#### 学芸員ハローデスク

1階と2階の交流ゾーンにある情報デスクでは、学芸員が研究活動などの通常業務を行なながら、北海道の自然・歴史・文化に関して、より専門的に知りたいという来館者の質問・疑問にお答えしています。（祝日のみ）



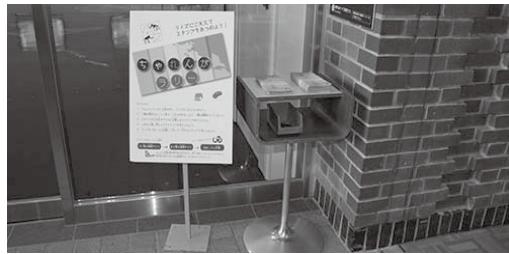
#### ミュージアムトーク

学芸員が総合展示のみどころや最新の研究などについて解説を行うイベントです。（一部の祝日のみ）



### ちゃれんがラリー

子どもが総合展示の内容を楽しく学ぶことができるよう、展示室内に関する簡単な問題に答えながら、スタンプを集めるクイズラリーを実施しています。(毎日実施)



### ハンズオン

普段は触ることのできない資料に特別に触ることができるコーナーを開設して、学芸員が道具の使い方などを実演するイベントを実施しています。(一部の祝日のみ)



### ポケット学芸員

当館では、スマートフォン用の展示解説アプリ「ポケット学芸員」を導入しています。総合展示など約350項目の解説を、日本語、英語、中国語(繁体・簡体)、韓国語、ロシア語の6言語で見ることができます。アプリは無料でインストールできます。



### 音声ガイド(展示解説器)

総合展示の内容を日本語(日本語、英語、中国語(繁体・簡体)、韓国語、ロシア語)で簡単に説明する機器を総合案内で貸し出しています(1回 280円)。



平成30年度 総合展示室におけるサービス・イベント参加者数(13,884名)

	質問・レファレンス等			音声ガイド 貸出件数	行事・イベント					合計
	1階	2階	合計		ハンズオン	ミュージアム トーク	ハイライト ツアー	ちゃれんが ラリー	合計	
4月	234	311	545	64	435	30	114	88	667	1,276
5月	399	475	874	87	915	49	105	134	1,203	2,164
6月	311	333	644	99	0	0	103	80	183	926
7月	469	793	1,262	137	238	72	242	59	611	2,010
8月	623	1,070	1,693	109	503	56	417	149	1,125	2,927
9月	240	226	466	43	506	41	68	70	685	1,194
10月	204	271	475	35	0	0	43	34	77	587
11月	135	162	297	70	0	0	82	26	108	475
12月	140	168	308	36	0	50	56	42	148	492
1月	246	281	527	54	0	0	91	126	217	798
2月	95	117	212	98	0	0	48	21	69	379
3月	194	232	426	61	0	0	84	85	169	656
合計	3,290	4,439	7,729	893	2,597	298	1,453	914	5,262	13,884

**平成 30 年度 ハンズオン内訳(12 件、2,597 名)**

開催日	行事名	場所	参加者数
4月 29 日	蓄音機で音楽をきいてみよう	総合展示室 2 階 交流ゾーン	262 名
4月 30 日	ヒグマのくらし	総合展示室 2 階 第 5 テーマ	173 名
5月 3 日	石器にさわってみよう ホンモノの貝の化石にさわってみよう！	総合展示室 1 階 第 1 テーマ 総合展示室 1 階 交流ゾーン	185 名 160 名
5月 4 日	ヒグマのくらし	総合展示室 2 階 第 5 テーマ	291 名
5月 5 日	アンモナイトにさわってみよう！ ホンモノの貝の化石にさわってみよう！	総合展示室 1 階 交流ゾーン 総合展示室 1 階 交流ゾーン	142 名 137 名
7月 16 日	リンリン黒電話	総合展示室 2 階 第 4 テーマ	238 名
8月 11 日	毛皮にさわってみよう！	総合展示室 1 階 交流ゾーン	503 名
9月 17 日	蓄音機で音楽を聞いてみよう	総合展示室 2 階 交流ゾーン	190 名
9月 23 日	リンリン黒電話	総合展示室 2 階 第 4 テーマ	166 名
9月 24 日	石器にさわってみよう	総合展示室 1 階 第 1 テーマ	150 名

**平成 30 年度 ミュージアムトーク内訳(11 件、298 名)**

開催日	行事名	担当	場所	参加者数
4月 29 日	野幌森林公園の花たち	水島未記	特別展示室	16 名
4月 30 日	昭和の嫁入り道具	尾曲香織	総合展示室 2 階 第 4 テーマ	14 名
5月 3 日	北海道林業を支えた道具	青柳かづら	総合展示室 2 階 第 3 テーマ	17 名
5月 4 日	野幌丘陵で発見されたステラーカイギュウ化石	添田雄二	総合展示室 1 階 第 1 テーマ	25 名
5月 5 日	織田ステノさんとゴザ編みの近現代	奥田統己(当館非 常勤研究職員)	総合展示室 1 階 第 2 テーマ、会議 室	7 名
7月 16 日	松浦武四郎が書いたアイヌ文化	遠藤志保	特別展示室	72 名
8月 11 日	“蒐集家”武四郎と考古遺物	鈴木琢也	特別展示室	56 名
9月 17 日	なぜ、アンモナイトは世界中から産出するの？	栗原憲一	総合展示室 1 階 交流ゾーン	21 名
9月 23 日	展示場のトンコリを弾いてみよう	甲地利恵	総合展示室 1 階 第 2 テーマ	12 名
9月 24 日	りんご農家で使われた道具のいろいろ	山際秀紀	特別展示室	8 名
12月 23 日	「生命のれきし展」みどころ紹介	添田雄二	特別展示室	50 名

## グループプレクチャー

総合展示の見どころや、北海道の自然・歴史・文化に関する話題について、当館の学芸員が映像などを使いながら、20～25分程度で解説を行っています（事前申込）。

できる限り多くの来館者の目的や要望に応じるため、グループプレクチャーは社会科見学や現地学習、修学旅行などの利用に対応した「総合展示ダイジェスト」と、特定のテーマにもとづく授業の一環としても利用できるような「北海道の自然・歴史・文化に関する各種のテーマ」を設定して、実施しています。

平成30年度グループプレクチャー利用者数(157件、7,844名)

件数	人数	メニュー別実施回数									
		①総合 展示ダイ ジェスト	②北海道 の生き物	③北海道 の化石	④アイヌ 文化の 世界	⑤北海道 の歴史	⑥北海道 のくらし	⑦北海道 の産業	⑧博物 館・学芸 員の仕事	⑨北海道 博物館の あらまし	⑩その他
4月	1	20	1	0	0	0	0	0	0	0	0
5月	18	919	5	1	1	7	0	3	0	1	0
6月	21	1,589	11	0	0	5	3	0	1	0	1
7月	21	775	9	1	0	3	0	1	0	2	0
8月	20	1,001	7	0	0	5	0	2	0	0	6
9月	27	1,156	8	0	0	10	2	2	0	2	1
10月	20	1,155	12	0	0	6	1	1	0	0	0
11月	9	408	4	0	0	3	0	0	0	0	2
12月	2	160	1	0	0	0	0	0	0	0	1
1月	5	213	3	0	0	1	1	0	0	0	0
2月	9	401	3	0	0	4	1	0	0	0	1
3月	4	99	2	0	0	0	0	1	0	0	1
合計	157	7,844	66	2	1	44	8	10	1	5	2
											18

## はっけん広場

はっけん広場は、「目で感じよう、ココロでふれよう、手ではっけんしよう」をキャッチフレーズに、子どもから大人までホンモノに触れて何かを発見できる場となるよう設置しています。化石に触る、アイヌ民族の文化を体験するなどの「はっけんキット」を配置しているほか、期間とテーマを定めて年間数回、気軽に参加できる「はっけんイベント」を開催しています。

また、はっけん広場に常駐している解説員は、来館者の希望に応じて道具の使い方や技術のレクチャーを行っています。平成30(2018)年度の利用者数は21,214名でした。

### はっけんプログラム

当館のスタッフ(解説員)の進行のもと、参加者が実際のアンモナイトを触って観察したり、アイヌ民族の衣装を着る体験をとおしてそれらの特徴を学んだり、はっけんできるプログラムを実施しています(事前申込)。

平成30年度はっけんプログラム(115件、7,051名)

件数	人数	プログラム別実施回数						
		クラス数	①ヒグマ	②アンモナイト	③アイヌ文化	④縄文文化のくらし	⑤昭和のくらし	その他
4月	0	0	0	0	0	0	0	0
5月	10	405	16	0	2	4	8	1
6月	11	611	19	0	0	13	0	6
7月	5	286	10	0	0	5	4	0
8月	16	1,114	35	0	0	27	1	7
9月	36	2,504	75	0	0	60	8	7
10月	31	1,833	59	3	0	33	2	19
11月	5	266	9	1	0	3	0	5
12月	0	0	0	0	0	0	0	0
1月	0	0	0	0	0	0	0	0
2月	1	32	1	0	0	0	0	1
3月	0	0	0	0	0	0	0	0
計	115	7,051	224	4	2	145	23	46

### はっけんイベント

一般来館者を対象として、土・日及び祝休日を中心に、簡単なものづくりの体験ができるイベントを実施しています。

平成30年度はっけんイベント参加者数(2,975名)

行事名	開催日	開催日数	参加者数
春の野幌森林公園 ポップアップカードをつくろう!	4月7日(土)~5月27日(日)の土曜日・日曜日・祝日	20日間	328名
ほいほーイ磁針をつくろう!	6月2日(土)~7月29日(日)の土曜日・日曜日・祝日	19日間	438名
『和とじ』de自由帳	8月1日(水)~8月19日(日)、8月25日(土)、26日(日)	19日間	439名
羊毛で落ち葉っち!	9月1日(土)~11月25日(日)の土曜日・日曜日・祝日	30日間	349名
しめ縄づくり	12月1日(土)~12月24日(月)の開館日	19日間	263名
羊毛でふわふわイノシシをつくろう	1月4日(金)~1月20日(日)の開館日	15日間	892名
雪の結晶のしおりをつくろう	1月26日(土)~2月24日(日)の土曜日・日曜日・祝日	11日間	114名
稻わらを織って、小さなトレーをつくろう	3月2日(土)~3月31日(日)の土曜日・日曜日・祝日	11日間	38名



ほいホイ磁針をつくろう！



羊毛でふわふわイノシシをつくろう

## はっけんキット

来館者が自由に手に取って遊んだり体験したりする中で、自然の不思議や昔の知恵など、これまで気がつかなかつたり、知らなかつたりする何かを〈はっけん〉してもらうことを目的に、体験型教材「はっけんキット」を開発・改良しています。平成30（2018）年度のはっけんキットの使用者数は11,548名でした。



はっけんキットのいろいろ

## はっけんキット一覧（平成30年4月1日現在）

### 【生き物に関するもの】

- ・毛皮にさわろう① ヒグマ
- ・毛皮にさわろう② エゾシカ
- ・毛皮にさわろう③ アザラシ

### 【地学に関するもの】

- ・北海道の砂を観察しよう
- ・アンモナイト化石を観察する

### 【アイヌ文化に関するもの】

- ・ムックリを鳴らそう
- ・いろいろな繊維にさわってみよう
- ・着物を着てみよう（小さな着物）
- ・着物を着てみよう（大きな着物）
- ・刺繍を観察しよう
- ・アイヌ語かるたに挑戦！
- ・アイヌパズルに挑戦！
- ・背負い縄（タラ）で荷物を運んでみよう
- ・背負い袋（サラニブ）を背負ってみよう
- ・サケ皮靴（模型）を組み立てよう
- ・木彫りを観察しよう

### 【歴史に関するもの】

- ・縄文人のおしゃれ
- ・土器文様のいろいろ
- ・鹿の角でつくった釣り針

### 【生活文化に関するもの】

- ・昔の衣服を着る①～1「冬の女性の装いをしてみよう 角巻 雪下駄」
- ・昔の衣服を着る①～2「冬の女性の装いをしてみよう お高祖ずきん 番傘」
- ・昔の衣服を着る②「お店屋さんになってみよう」
- ・昔の衣服を着る③「漁師さんになってみよう」
- ・昔の衣服を着る④「農家の人にになってみよう」
- ・昔の衣服を着る⑤「戦時中の暮らし」
- ・昔の道具ではかる①「杵でお米をはかってみよう」
- ・昔の道具ではかる②「さおばかりで おいもを はかろう」
- ・包んで しばって①「わらで卵を包んでみよう」
- ・包んで しばって②「経木でアサリを包んでみよう」
- ・包んで しばって③「風呂敷を使ってみよう」
- ・赤ちゃんのお世話①「おんぶをしてみよう」
- ・赤ちゃんのお世話②「おむつをあててみよう」
- ・なつかしおもちゃで遊ぼう①「あやとり おはじき パッチ」
- ・なつかしおもちゃで遊ぼう②「お手玉 こま わなげ」
- ・なつかしおもちゃで遊ぼう③「竹わり けん玉 だるまおどし」
- ・パズルで脳をきたえよう！「万年ゲーム 清少納言知恵の板 ザイルトリック」
- ・みんなでカードゲームをしよう！「かるた 家族あわせ 鳥さし」
- ・みんなでボードゲームをしよう！「ダイヤモンドゲーム コピットゲーム 十六武藏」
- ・すろくで、もりあがろう！「蝦夷土産道中寿五六 札幌区実業家案内双六」
- ・いろんな〈せんい〉「この布は何からできているのかな？」
- ・ヒツジの毛にふれる「ふわふわの毛をとかしてみよう！」

## イベント

自発的に学習したり、博物館の多様な活動に興味を持つてもらうきっかけとなったりするような入門的なイベントから、より専門的な講座まで、北海道の自然・歴史・文化に関わるイベントや講演会などをさまざまな形態で開催しています。

### 体験型プログラム

大人から子どもまでを対象とした、「ちゃれんがワークショップ」「自然観察会」などの体験型のプログラムを行っています。

#### 平成30年度の体験型プログラム（「ちゃれんがワークショップ」「自然観察会」）(10件、373名)

開催日	行事名	担当・講師	参加者数
4月14日	自然観察会 エゾアカガエルのラブコールを聴こう	堀繁久・水島未記・表渕太、自然ふれあい交流館スタッフ	47名
5月19日	自然観察会 落ち葉の下のカタツムリをさがそう	堀繁久・水島未記・表渕太、自然ふれあい交流館スタッフ	20名
6月3日ほか	ちゃれんがワークショップ 繩文土器をつくる（全2回）	右代啓視・鈴木琢也	104名
	※①6月3日に「つくる」、②6月24日に「焼く」を実施（各回参加者：①57名、②47名）		
7月7日	ちゃれんがワークショップ のこぎりでネームプレートをつぐろう	青柳かつら・山際秀紀・池田貴夫	14名
7月8日	ちゃれんがワークショップ 石器をつくる	本吉春雄氏（湧別川流域史研究会会长）、右代啓視・鈴木琢也	49名
10月20日	自然観察会 落ち葉でPON！	水島未記・堀繁久・表渕太、自然ふれあい交流館スタッフ	43名
11月25日	ちゃれんがワークショップ 稻わらで縄をつくって、長なわとびに挑戦！	池田貴夫・舟山直治	17名
12月22日	ちゃれんがワークショップ 博物館で新年祈願!? 日本の画材で絵馬づくり	三浦泰之・水島未記・田中祐未	26名
2月9日ほか	ちゃれんがワークショップ 羊毛を染める・紡ぐ	会田理人・尾曲香織	19名
	※①2月9日、②2月10日に実施（各回参加者①8名、②11名）		
2月23日	自然観察会 ユキウサギを追跡しよう！	表渕太・水島未記・鈴木あすみ、自然ふれあい交流館スタッフ	34名

### ちゃれんが子どもクラブ

主に小学生とその家族を対象として、親子でのづくりや体験ができるプログラムを中心に実施しています。

#### 平成30年度のちゃれんが子どもクラブ（12件、621名）

開催日	行事名	担当・講師	参加者数
5月6日	鳥を呼ぶバードコールをつくろう！	表渕太・水島未記	60名
7月28日	めざせ！武四郎 消しゴムでオリジナルはんこをつくろ！	三浦泰之・水島未記	49名
7月29日	めざせ！武四郎 自分の作品で巻物をつくろう！	佐々木利和（当館非常勤研究職員）・櫻井万里子・田村雅史	39名
8月4日	ヤマアラシの針でアクセサリーをつくろう	表渕太・池田貴夫・村上孝一	46名
8月18日	めざせ！武四郎 夏の思い出絵日記スゴロクをつくろう！	栗原憲一・遠藤志保	29名
8月18日	草原の主・トノサマバッタをさがそう	堀繁久・水島未記・表渕太、自然ふれあい交流館スタッフ	84名
9月8日（中止）	アイヌ音楽 うたおう・おどろう・ならそう・ひこう	甲地利恵	—
9月15日	アンモナイトを解剖しよう	栗原憲一・圓谷昂史	50名
10月6日	やってみよう、ステンシル！	会田理人・山際秀紀	20名
12月16日ほか	始祖鳥をつくってみよう！	表渕太・圓谷昂史	119名
	※①12月16日、②1月20日の各日午前・午後の2回ずつ実施（各回参加者①午前30名、午後30名、②午前30名、午後29名）		

1月 12 日	アイヌ語であそぼう	田村雅史・大谷洋一	6 名
1月 26 日	貝の化石で標本をつくろう！	圓谷昂史・栗原憲一、畠誠氏(北広島市エコミュージアムセンター)	40 名
2月 16 日	雪のなかで宝さがし	舟山直治・池田貴夫	79 名

## 講座・講演会

北海道博物館のスタッフや、国内外のさまざまな分野の研究者による研究発表、展示会や所蔵資料に関する講座・講演会・シンポジウムなどを実施しています。

### 平成 30 年度の講座・講演会(21 件、1,741 名)

開催日	種類	行事名	担当・講師	参加者数
4月 21 日ほか 古文書講座		ゆとり古文書講座(全3回)	東俊佑	206 名
		※①4月 21 日、②5月 19 日、③6月 16 日に実施(各回参加者①79 名、②70 名、③57 名)		
5月 13 日	ミュージアムカレッジ	のっぽろの森の生き物たち	堀繁久・水島未記	57 名
5月 20 日	ミュージアムカレッジ	民具の変化からみる近現代のアイヌ文化—荷縄	大坂拓	23 名
6月 10 日	講演会	昆虫写真家 海野和男の生きもの写真のススメ	海野和男氏(生きもの写真リトルリーグ実行委員長)	56 名
6月 17 日	ミュージアムカレッジ	アイヌの子守歌・諸民族の子守歌	甲地利恵	48 名
7月 1 日	特別展関連講演会	武四郎の道は未来へと続く	山本命氏(松浦武四郎記念館)	244 名
7月 14 日	ミュージアムカレッジ	特別展 ここが見どころ！	三浦泰之	103 名
7月 22 日	ミュージアムカレッジ	武四郎リレー講座 ①「動物と植物のお話」	表渕太・水島未記	83 名
8月 5 日	ミュージアムカレッジ	武四郎リレー講座 ②「漁業と考古遺物のお話」	会田理人・鈴木琢也	56 名
8月 12 日	特別展関連講演会	1818一生と死	佐々木利和(当館非常勤研究職員)	155 名
8月 19 日	ミュージアムカレッジ	武四郎リレー講座 ③「貝とアンモナイトのお話」	圓谷昂史・栗原憲一	60 名
9月 9 日	ミュージアムカレッジ	北蝦夷地ウショロ場所物語	東俊佑	—
(中止)				
9月 22 日ほか アイヌ語講座		日常会話のリズムとインтоネーションを中心に (全2回)	奥田統己(当館非常勤研究職員)	36 名
		※①9月 22 日、②9月 29 日に実施(各回参加者①23 名、②13 名)		
10月 7 日	ミュージアムカレッジ	囚人が逃げた！—明治期の集治監関係の文書 から	山田伸一	40 名
10月 13 日 ほか	アイヌ語講座	はじめてからのアイヌ語講座(全3回)	田村雅史	31 名
		※①10月 13 日、②11月 10 日、③12月 8 日に実施(各回参加者①11 名、②8 名、③12 名)		
10月 21 日 ほか	古文書講座	ゆとり古文書講座【レベル 3】(全3回)	東俊佑	95 名
		※①10月 21 日、②11月 18 日、③12月 16 日に実施(各回参加者①25 名、②35 名、③35 名)		
10月 21 日 ほか	古文書講座	はじめての古文書講座【レベル 1】(全3回)	東俊佑	98 名
		※①10月 21 日、②11月 18 日、③12月 16 日に実施(各回参加者①27 名、②37 名、③34 名)		
11月 3 日	講演会	近世初期における日本人の地理認識の転換	藤井讓治氏(京都大学名誉教授)	80 名
11月 4 日	ミュージアムカレッジ	博物館の産業資料を読む	会田理人・山際秀紀	25 名
1月 20 日ほか 古文書講座		脱ゆとり古文書講座【レベル 4】(全3回)	東俊佑	122 名
		※①1月 20 日、②2月 17 日、③3月 17 日に実施(各回参加者①38 名、②41 名、③43 名)		
1月 20 日ほか 古文書講座		スバルタ古文書講座【レベル 2】(全3回)	東俊佑	124 名
		※①1月 20 日、②2月 17 日、③3月 17 日に実施(各回参加者①41 名、②44 名、③39 名)		

## 特別イベント

特別展の期間中や文化の日などにあわせて、外部講師も招きながら、講座、体験イベント、演奏会などを開催しています。

### 平成 30 年度の特別イベント(10 件、3,576 名)

開催日	行事名	担当・講師	場所	参加者数
7月 1 日	アイヌ民族の伝統芸能公演(千歳アイヌ文化伝承保存会)	千歳アイヌ文化伝承保存会	グランドホール	128 名
7月 15 日	北海道ジオパークまつり 2018	道内ジオパーク関係者	講堂	2,203 名
7月 21 日	アイヌ民族の伝統芸能公演(平取アイヌ文化保存会)	平取アイヌ文化保存会	グランドホール	116 名
8月 19 日	アイヌ民族の伝統芸能公演(帶広カムイタウボボ保存会)	帶広カムイタウボボ保存会	グランドホール	181 名
8月 25 日	地図を楽しもう！－北海道ってどんなところ？	栗原憲一・遠藤志保、北海道地図株式会社スタッフ	講堂	28 名
8月 26 日	フォーラム 松浦武四郎研究のこれまでとこれから	田端宏氏(松浦武四郎研究会会長)、五十嵐聰美氏(北海道立近代美術館)、内川隆志氏(國學院大學)、太田光俊氏(三重県総合博物館)、谷本晃久氏(北海道大学)、三浦泰之	講堂	231 名
11月 3 日	ミュージアムコンサート アイヌ音楽ライブ	MAREWREW(マレウレウ)	記念ホール	125 名
12月 15 日	えほん meets 博物館	圓谷昂史、国立科学博物館スタッフ	特別展示室、総合	35 名
ほか	※ ①12月 15 日、②1月 19 日に実施(各回参加者① 18 名、② 17 名)		展示室	
1月 5 日	アロサウルスになってみよう！		特別展示室	492 名
～12日	※ ①1月 5 日～12日の開館日各日に 1 回ずつ実施(各回参加者 1 月 5 日 73 名、6 日 83 名、8 日 50 名、9 日 58 名、10 日 65 名、11 日 83 名、12 日 80 名)			
1月 14 日	博物館のバックヤードを見てみよう	杉山智昭・山際秀紀	収蔵庫・ボイラー室・	37 名
ほか	※ ①1月 14 日、②2月 11 日の各日午前・午後の 2 回ずつ実施(各回参加者①午前 13 名、午後 9 名、②午前 10 名、午後 5 名)		保存処理室ほか	

## その他のイベント

### 屋上スカイビュー特別開放

春季～秋季の祝日に限って屋上を開放しております。札幌の市街地の眺めや野幌の森の広がりを楽しんでいただけます。

### 平成 30 年度の屋上スカイビュー特別開放(8 回、2,997 名)

4月 29 日から 9 月 24 日までの祝日に実施しました。

開催日	参加者数
4月 29 日(昭和の日)	471 名
4月 30 日(振替休日)	394 名
5月 3 日(憲法記念日)	(悪天候のため中止)
5月 4 日(みどりの日)	479 名
5月 5 日(こどもの日)	393 名
7月 16 日(海の日)	463 名
8月 11 日(海の日)	(悪天候のため中止)
9月 17 日(敬老の日)	329 名
9月 23 日(秋分の日)	238 名
9月 24 日(振替休日)	230 名

## 館外のイベント

巡回展等にあわせて、館外でも講座、イベント等を開催していますが、平成 30 年度の館外のイベントはありませんでした。

## 5 学習・活動支援

道民の「知りたい」気持ちに応えるとともに、博物館や北海道の自然・歴史・文化の理解促進のための人材育成事業の一環として、利用者をはじめ、地域の博物館や学校教育などさまざまな活動に対する支援を行っています。

### 学校教育との連携

北海道博物館では、学校教育との連携事業を重要な事業と位置づけています。そのため博物館を生涯学習や学校教育においてより効果的に活用していただくため、地域の博物館や学校などのニーズ把握に努めながら、事業を進めています。

#### 教職員を対象とした研修

平成 30（2018）年度には、前年度に引き続き、博物館を活用した学習活動への理解促進のため、道内の小・中学校および高等学校の教職員等を対象として、北海道博物館・北海道開拓の村の展示や教育プログラムについて解説する、「博物館教育プログラム研修会」を開催しました。

#### 平成 30 年度博物館教育プログラム研修会(1回、14名)

開催日	2018年8月17日(金)
参加者	14名
研修内容	研修1 北海道博物館の利用方法 研修2 アイヌ文化の学習と指導方法 研修3 昔の道具と暮らしの学習と指導方法 研修4 北海道開拓の村利用方法 研修5 昔の道具または近代化に気付く学習のポイント



博物館教育プログラム研修会の様子（平成 30 年度）

#### 『北海道博物館 学校利用ガイド』

小・中学校や高校などの学校団体が、現地学習や社会見学、修学旅行などで、北海道博物館を利用する際に必要な情報をまとめたガイドです。北海道博物館の概要のほか、博物館利用の手続きや博物館でできる教育プログラムなどについて記載しています。道内の学校に送付しているほか、当館のホームページ上からもご覧いただけます。



#### はつけんキットの貸出

北海道博物館では、北海道の自然・歴史・文化についての理解を深めてもらうため、北海道内の小学校、中学校、高等学校、幼稚園・保育園等の学校団体を対象として、学校の授業などで活用できる補助教材の貸出を行っています。平成 30（2018）年度は 8 件の貸出を実施しました。

## 博物館実習・インターンシップの受入

### 博物館実習

博物館実習（館務実習）は、年に1回、8月に20名を上限として実施しています。10日間の日程で、博物館の活動および学芸員の業務のうち、できるだけ多くの面を経験できるようプログラムを組んでいます。平成30（2018）年度は8月21日（火）から8月31日（金）の休館日を除く10日間で実施しました。また、見学実習は随時受け入れています。

#### 平成30年度の博物館実習(館務実習)生の受入(15名)

大学名	学部・学科名	学年	人数	専攻
弘前大学	農学生命科学部	3年	1名	生物学
日本大学	文理学部	4年	1名	史学
龍谷大学	文学部	4年	1名	史学
京都女子大学	現代社会学部	4年	1名	社会学
桜美林大学	芸術文化学群	4年	1名	演劇
千葉大学	文学部	4年	1名	史学
北海道大学大学院	農学院	修士1年	1名	生物学
札幌大学	地域共生学群	4年	1名	考古学
札幌大学	地域共生学群	3年	1名	考古学
札幌学院大学	人文学部	4年	1名	人間科学
札幌学院大学	人文学部	3年	1名	人間科学
札幌学院大学	人文学部	3年	1名	人間科学
京都府立大学	文学部	4年	1名	史学
北海道大学大学院	水産科学院	修士1年	1名	生物学
青山学院大学	文学部	4年	1名	英米文学

#### 平成30年度の博物館実習(館務実習)の様子



展示実習の様子

#### 平成30年度の見学実習の受入(7件、90名)

実施日	大学名等	学部・講座名	人数	内容
5月25日	北海道大学	「博物館実習」履修学生	25名	概要説明、バックヤード見学、総合展示室観覧
6月13日	玉川大学	「博物館実習」履修学生	1名	概要説明等
7月14日	札幌大学	「博物館実習」履修学生	19名	概要説明、バックヤード見学、総合展示室観覧
7月14日	北翔大学	「博物館実習」履修学生	5名	概要説明、バックヤード見学、総合展示室観覧
8月8日	國學院大學	学芸員養成課程	20名	概要説明、バックヤード見学、総合展示室観覧
8月23日	(各大学)	「北海道開拓の村」における博物館実習(館務実習)生	10名	館内業務等のレクチャー、総合展示室観覧
11月2日	北海道大学	「博物館実習」履修学生	10名	概要説明、バックヤード見学、総合展示室観覧

## インターンシップ

中学・高校、大学のカリキュラムの一環として行われるインターンシップや職場体験等についても、積極的に受け入れています。

### 平成30年度のインターンシップの受入(7件、36名)

期間	学校名	学年	人数	備考
8月10日	小樽商科大学、弘前大学	3年	3名	石狩振興局保健環境部社会福祉課インターン
8月24日	弘前大学、北海学園大学	3年	3名	シップ(学生実務研修)による受入
8月23日	北海学園大学、新潟大学		3名	環境生活部インターンシップによる受入
8月24日	美幌町立北中学校		1名	
9月12日	市立札幌藻岩高等学校		4名	札幌市立高等学校「職場体験学習」による受入
	市立札幌清田高等学校		3名	
9月19日	市立札幌旭丘高等学校	1年	6名	
10月17日	北海道札幌手稲高等学校	1年	5名	総合的な学習の時間による受入
11月29日	登別明日中等教育学校	高校1年	3名	宿泊学習にかかる職場体験
	登別明日中等教育学校	高校1年	5名	石狩教育局インターンシップによる受入

## レファレンス対応

北海道の自然・歴史・文化に関する身近な相談の窓口として、質問や疑問、専門的な内容に関する相談に図書室や電話などで対応しています。こうしたレファレンス対応は、利用者との対話による情報交換の場となっています。専門的な内容を含む質問等はそれぞれの専門の学芸職員が対応していますが、内容によってはより正確な情報を伝えするため、資料等を調べた後に回答しています。

### 平成30年度のレファレンス等対応件数

写真提供件数	126件
レファレンス件数	471件（来館230件、非来館241件）
アンケート、その他の利用件数	22件

## 図書室

図書室には閲覧スペース、図書カウンターを設置しています。閲覧スペースには、北海道の自然・歴史・文化に関する図書や各地の博物館の機関誌などを配架するとともに、当館で公開しているアイヌ文化関連の映像や音声などが視聴できるスペースや、企画展開催に合わせて、展示に関連する図書を配架するコーナーを設けています。

また、北海道の自然・歴史・文化に関する質問や図書に関する問い合わせ、博物館の資料への質問などにも対応しています。利用は無料です。

### 平成30年度の図書室利用者

図書室利用者	3,293名
うち図書室のみの利用者	37名



閲覧スペース



図書カウンター

## 図書室の蔵書

当館の刊行物のほか、職員が研究に用いる図書資料（専門書・一般書）を所蔵しています。道内外の博物館、大学などの機関や、個人からの寄贈等による刊行物も収集しており、書店では流通しない貴重な図書資料も多くあります。これらの図書資料は、主に2つの書庫で管理され、その一部を図書室の閲覧スペースに配架し、一般の来館者に利用していただいています。

### 平成30年度の図書資料数

区分	数量（冊）	
平成29年度総計	152,678	
平成30年度受入	単行本図書	478
	雑誌	296
	博物館関係出版物	1,158
	小計	1,932
平成30年度除籍	1,935	
総計	152,675	

## アイヌ関係資料の閲覧・視聴

閲覧スペースでは、アイヌ民族文化研究センターが公開している資料を閲覧することができます。閲覧・視聴できる資料は、旧北海道立アイヌ民族文化研究センターならびに、その機能を引き継いだ当館のアイヌ民族文化研究センターが、採録や寄贈により収集した資料（「山田秀三文庫」「久保寺逸彦文庫」「職員採録資料」）のうち、公開の手続きを終えた音声・映像・文書・写真資料です。



アイヌ民族文化研究センター資料公開スペース